

活動報告会

今年度は

PBL(Project Based Learning) 授業「プロジェクト実習」は今年で四年目です。学生はそもそもこの授業から何を学ぶのか。原点に立ち返り、大学のすべての授業に共通する永遠の課題を自問自答しながら、「プロジェクト実習」の進化・深化を目指します。

● 地域連携・地域貢献 ●

さとみ・あいチーム

● 国際交流・異文化理解 ●

異文化交流プロジェクトチーム

● P B L 型インターンシップ ●

こみっとフェスティバルチーム

公共交通チーム

IU+IC×NTT コムプロジェクトチーム

● 先進地実地研修報告 ●

● パネルディスカッション「PBL 授業の設計と運用をめぐる」 ●

日時

平成 27 年
12月12日(土)
13:00-16:10 (12:30 受付開始)

※当日、会場前廊下にて各チームの活動報告パネル・成果物等の展示を行います。あわせてご覧いただければ幸いです。

会場

茨城大学人文学部 10 番教室

主催 茨城大学人文学部(市民共創教育研究センター)

共催 茨城キリスト教大学 / 常磐大学 / 常陸太田市 / 茨城大学大学教育センター

後援 茨城大学人文学部後援会 / 泉町二丁目商店街振興組合 (水戸市)

活動報告会に関するお問い合わせは

☎029-228-8139 または

Eメール daigo.kanda.8139@vc.ibaraki.ac.jp 神田大吾まで

担当教員より

学生が社会人としての基礎力を身に付ける専門科目「プロジェクト実習」は、今年度、人文学部学生を中心に、教育学部、また単位互換協定を結んでいる常磐大学、茨城キリスト教大学の学生が参加し、五つのチームに分かれて活発に活動을続けて参りました。

いずれの活動においても地域の皆様と密接に連携させていただき、種々のご支援を賜りました。活動報告会では各チームから活動の成果をご報告させていただくとともに、皆様からの率直なご意見をいただければ幸いです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

茨城大学 人文学部准教授 **神田 大吾**

活動報告会

- 1 開会挨拶** 13:00-13:05
佐藤和夫 (大学教育センター長・学長特別補佐)
- 2 4年目を迎えたプロジェクト実習・質保証に向けた改善への取り組み** 13:05-13:20
鈴木敦 (大学教育センターキャリア教育部長・プロジェクト実習担当教員)
- 3 活動報告** 13:20-14:40
(1) 発表方法の説明
井澤耕一 (プロジェクト実習担当教員)
(2) さとみ・あいチーム
(3) 異文化交流プロジェクトチーム
(4) こみっとフェスティバルチーム
(5) 公共交通チーム
(6) IU+IC×NTT コムプロジェクトチーム
- 4 休憩** 14:40-14:50
- 5 先進地実地研修報告** 14:50-15:05
(1) 概要説明
鈴木敦
(2) 社会人基礎力育成グランプリ 2016 関東地区大会から学んだこと
参加学生
- 6 「プロジェクト実習B」「初年次PBL 試行」現地報告会開催のお知らせ** 15:05-15:10
鈴木敦
- 7 パネルディスカッション「PBL 授業の設計と運用をめぐって」** 15:10-16:05
宮本紘太郎 (泉町二丁目商店街振興組合)
須藤文彦 (水戸市市長公室交通政策課長)
上野尚美 (茨城キリスト教大学文学部長)
澁谷浩一 (人文学部副学部長・教育改革推進委員会委員長)
プロジェクト実習履修生
コーディネーター：鈴木敦
- 8 閉会挨拶** 16:05-16:10
佐川泰弘 (人文学部長)



日時 平成27年
12月12日(土)
13:00-16:10
(12:30 受付開始)

会場 茨城大学人文学部 10 番教室

水戸キャンパス

JR 水戸駅 (北口) バスターミナル7 番乗り場から茨城交通バス「茨大行 (栄町経由)」に乗り、「茨大前営業所」で下車。バス乗車時間は約 30 分。
茨城交通 HP▶ www.ibako.co.jp

お問い合わせは

☎029-228-8139 または

Eメール daigo.kanda.8139@vc.ibaraki.ac.jp

茨城大学 神田大吾まで

茨城大学

4年目を迎えたプロジェクト実習

質保証に向けた 改善への取り組み

茨城大学・大学教育センター
副センター長（キャリア教育部長）
人文学部プロジェクト実習担当教員
鈴木 敦
atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp

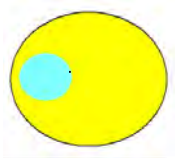
1

茨城大学

プロジェクト実習の背景(1) 就職力と就業力

就職力：
面接対策などの、就職試験突破のための力

就業力：
就職活動時だけでなく、
就職後も活躍して行ける
ための種々の能力の総体



2

茨城大学

プロジェクト実習の背景(2) 「根力(ねぢから)」とは

大学生が卒業時に 身につけているべき**就業力**

経産省「社会人基礎力」をベースに
「根力の構成要素」を選定

3

茨城大学

プロジェクト実習の背景(3) 根力の構成要素

1. 基礎的学力 人この意義の上に 「根力」を構築していく	読み	文章読解能力、論理的思考力、分析力
	書き	文章作成能力、論理的思考力、分析力
2. 社会生活力	コミュニケーション能力	交渉力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力
	生活力	自立した生活を実践できる力
3. 行動力	人間関係構築力	生活を営む上で必要な、人間関係構築するための力
	情報収集力	生活を営む上で必要な、情報を知り、どのようにすれば実現できるかを把握する力
4. 思考力	主体性	物事に進んで取り組む力
	継続力	他人に継続を促す力
5. チームワーク 能力	実行力	目的を達成し、結果に行動する力
	対応力	物事に遇された、疑問に思い、主体的に対応する力
6. 職業力	課題発見力	現状を分析し、目的の課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力
7. 問題解決力	想像力	課題が抱える影響、課題解決方法の影響など、状況イメージする力
	課題解決力	課題の本質を捉え、適切な解決方法を提示する力
8. 創造力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
9. チームワーク 能力	組織力	集団の善い・悪いを判断する力
	状況把握力	自分の周囲の人や物事との関係を理解する力
10. コミュニケーション 能力	調整力	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生原因に対応する力

4

茨城大学

プロジェクト実習の背景(4) プロジェクト実習の位置

各期の全学目標		根力(ねぢから)育成プログラム	
第一段階	根力養成プログラム： 学生の自覚的行動を促し、 社会で活躍するための基礎となる能力 ・根力の育成を図るための社会実習 ①フレックスマンダゴール： 課題解決のための学習 ②ステップアップ科目群： 目的の方向性を確認して 次の段階へ	1年	根力養成プログラム ①フレックスマンダゴール
第二段階	根力強化プログラム： 社会人としての実習を促し、 実践力を高める	2年	②ステップアップ 科目群 根力強化 プログラム
第三段階	根力実践プログラム： 実践の場を通して、これまで 培った能力を磨き、自らを高め ていく	3年 4年	根力実践 プログラム

5

茨城大学

プロジェクト実習 2015年度の構成

授業科目名	プロジェクト実習 A	プロジェクト実習 B	プロジェクト実習 C	プロジェクト実習 D
テーマ	総合	地域連携 地域貢献	国際交流 異文化理解	PBL型 インターンシップ
段階	対象 学年			
根力強化 プログラム	2-4年	プロジェクト 実習A スタッフ編	プロジェクト 実習B スタッフ編	プロジェクト 実習C スタッフ編
根力実践 プログラム	3-4年	プロジェクト 実習A リーダー編	プロジェクト 実習B リーダー編	プロジェクト 実習C リーダー編
	4年	プロジェクト 実習A メンター編	プロジェクト 実習B メンター編	プロジェクト 実習C メンター編

*2015年度はプロジェクト実習A相当のチームは無し

6

茨城大学

PBL授業の特色と 担当教員のスタンス

1. Project Based Learning (課題解決学習)
アクティブラーニング(能動的学習)の一種
学生がプロジェクトに取り組むことを通じて
自発的に学ぶ
2. 担当教員のスタンス
「学習環境提供者」「相談相手」＝勤所は「我慢」
「わかっちゃいるけどやめられない」との戦い・葛藤
→「教育の場では許されること」と
「社会では許されないこと」との見極め(匙加減)

7

茨城大学

*学生向けガイダンス用スライド

PBL授業 プロジェクト実習の特色

1. 茨城大学就業力育成プログラムの中核
2. プロジェクト+追加アイテム
3. 2年生～4年生向け
4. 他大学からの受講、大歓迎
→大学・学部・学年の異なるメンバーで
チーム(5人～9人)活動
5. 通年2単位
→「単位集め」には不向き
→「外」との繋がり＝責任感が必要

8

茨城大学

*学生向けガイダンス用スライド

プロジェクトの 提案・選択は自由!

1. 昨年度の履修者が提案した
継続プロジェクトに参加する
2. 学外から提案された
プロジェクトに参加する
3. 自分でやりたいプロジェクトを提案して
メンバー(＝自分を含めて最低5人)を
集める

どれでもOK!

9

茨城大学

*学生向けガイダンス用スライド

活動予算について

1. 1チーム当たりMAX4万円を配分
→「使い切る」必要なし。節約に努めて下さい
→用途によっては制限あり。
2. 不足分は、チームごとに自前で調達
→「学内・学外の、この種の活動に対する
補助金に応募する」
「連携相手と交渉する」
「学園祭出店等で稼ぐ」 等々
→「計画遂行の為に予算調達」自体が
根力育成のトレーニング!

10

茨城大学

*学生向けガイダンス用スライド

参加姿勢の考え方(1)

「自分が動かなければ回らない」

- ・ チームは5人以上9人以下
- ・ 誰もが何らかの役割分担
- ・ 「自分の頭で考える」「報・連・相」を
怠れば、チームは勿論
「学外の協力者の皆さん」に迷惑

**「学生だから」では許されない
＝社会人を疑似体験**

11

茨城大学

*学生向けガイダンス用スライド

参加姿勢の考え方(2)

「やむを得ない欠席は必ず生じる」

- ・ 単位付与の規定時間を自ずと越える活動計画
→ **正当な理由**があり、チーム・学外協力者・
担当教員に**きちんと報告**した上での
<やむを得ない欠席>を一定程度保証

「欠席は罪」

**将来、必要な休暇も取りながら、支障なく
職務をこなしていくトレーニング**

12

*学生向けガイダンス用スライド

プロジェクト実習の勘所(1)

*プロジェクト貫徹！万歳！！
…だけ？ だったら、
サークルと何が違うの？

*「教えて貰える」ことは
何もない！

13

*学生向けガイダンス用スライド

プロジェクト実習の勘所(2)

だから！

1. プロジェクト貫徹から何を学ぶの？
「自分にとっての学び」を、明確に設定！
2. P J実習に取り組む自分の姿勢・思考・行動は、自ら設定した「学び」の達成に叶ったものか？
常に検討→「明日の活動」に反映
3. 自分で学ぶ・周りから「盗む」

14

2012～2014
プロジェクト実習の大まかな流れ

4月～5月：
ガイダンス→前年度チーム代表による活動紹介→
プロジェクト提案→チーム結成→チーム別活動→構想発表会

6月～前期末：
チーム別活動→中間報告会

夏期休暇～後期初頭：
チーム別活動→中間報告会

11月ごろ（チームにより変動あり。概して学園祭時期）
チーム別活動→ピークとなる活動・催事

11月後半～1月末：
チーム別活動→先進地実地研修(2013～)→活動報告会

1月末～年度末：
リフレクション→報告書作成

適宜、追加アイテムを挿入
(朝日新聞講座・PROGテスト等)

15

「オトナ会議」

「オトナ会議」とは？

- ・2013年以降、年数回・不定期開催のプロジェクト実習に学外から課題をご提案下さった水戸市内に所在する官庁・企業の皆様とプロジェクト実習担当教員によるプロジェクト実習の設計・運営に関する意見交換の場
- *距離を超えた拡大も模索中(2014年12月7日オトナ合宿in里美)

中核メンバーは？

- ・泉町二丁目商店街振興組合 : 宮本様
- ・水戸市役所 : 須藤様・鬼沢様・田治様
- ・JTB関東 法人営業水戸支店: 西島様

ご支援、ありがとうございます！ <(_)>

16

オトナ会議の分析
開講後3年を過ぎて

教員

- ・PBL技法自体を学びながらの授業運営
- ・予算確保、学外協力者の開拓・調整
- ・授業＝学内を前提とした諸規則の壁との戦い 等々

学生

- ・「先輩」が殆どor全くいない中での取り組み
- ・学外の方々は何論、担当教員との「未知の間合い」
- ・プロジェクトに対する責任感とオーバーワーク

プロジェクト遂行自体が目的化していなかったか？
プロジェクトを通しての「学び」こそが目的だった筈！

17

授業の質保証
二つの局面

1. 授業の設計と運用
2. リフレクションと成績評価

18

1への対策

茨城大学

これが必要！(1) 履修目的の明確化

- ・ 自己の現状分析：「根力構成要素ルーブリック」記入
マインドマップ作成&学生間意見交換
- ・ 取組対象の研究：P J 提案者との直接面談(質問票作成)
- ・ 選択理由成文化：取組希望 P J とその理由
- ・ 履修目的明確化：「個人の達成目標ルーブリック」作成

これが必要！(2) 課題発見技法の実践学習

- ・ 役割の自覚：事例シナリオ学習
- ・ 課題発見技法(1)：ブレインストーミングとK J 法 A L
- ・ 課題発見技法(2)：B S と K J でチーム活動構想立案

→2015年度プロジェクト実習冒頭に組み込み

19

2015 プロジェクト実習の大まかな流れ

茨城大学

4月～6月前半：
ガイダンス→根力R→前年度代表チームによる活動紹介→マインドマップ→プロジェクト提案→直接面談→希望理由書→目標R→チーム結成→事例シナリオ→B S と K J 法の A L →チーム別活動(B S と K J 法で構想立案)→構想発表会

6月後半～前期末：
チーム別活動→中間報告会

追加アイテムも
適宜差し替え

夏期休暇～後期初頭：
チーム別活動→中間報告会

11月ごろ (チームにより変動あり。概して学園祭時期)
チーム別活動→ピークとなる活動・催事

11月後半～12月前半：
チーム別活動→先進地実地研修→活動報告会(約50日繰り上げ)

12月後半～年度末：
リフレクション→報告書作成

20

主な追加教材

—お手元の資料をご覧ください—

茨城大学

1. 根力の構成要素ルーブリック
2. マインドマップ解説書
3. 個人の達成目標ルーブリック
4. 事例シナリオと課題(雛形)
5. B S (ブレインストーミング)と K J 法解説

21

中断したアイテム

—お手元の資料をご覧ください—

茨城大学

1. 朝日新聞講座(原因は主に日程)
出張講座→活動紹介文作成→朝日新聞講師による添削→ポスターセッション
2. PROGテスト(原因は主に予算)
「コンピテンシーを測る」テスト
データは継続的に蓄積されてこそ将来の財産になるのだが...

来年度以降の復活はなるか？

22

2015年度 授業の設計と運用 改善の試み

茨城大学

さて、効果の程は？

23

ご清聴 ありがとうございました

茨城大学

鈴木 敦
atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp

24

根力の構成要素ルーブリック

根力の構成要素		4	3	2	1	
1 基礎的素養	読み	文章読解能力 論理的思考力 分析力	難解で長大な文章でも、論旨を的確に捉えることができる。筆者の主張を論理的に理解・分析し、自らの見解を組み立てることができる	比較的平易で短い文章であれば、論旨を的確に捉えることができる。筆者の主張を理解・分析し、自らの見解を組み立てることができる	比較的平易で短い文章であれば、ほぼ最後まで読み通し、筆者の主張をある程度まで理解・分析することができる	比較的平易で短い文章であっても、最後まで読み通すことができない。たとえ読み通せても、筆者の主張を理解・分析することができない
	書き	文章作成能力 論理的思考力 分析力	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料をルールを踏まえて提示しつつ、4,000字以上の論旨が明確な文章にまとめることができる	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料をある程度ルールを踏まえて提示できる。4,000字以上の文章を書いた経験は無い	特定のテーマについて、短い文章を書くことができる。論理的な思考・分析や、必要な資料をルールを踏まえて提示することには難がある	「つぶやき」的に短い文章を書くことはできるが、論理的な思考や分析を提示することはできない
	ソロバン	基本的なIT能力	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、初心者に分かりやすく説明することができる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、基本的にマニュアル無しで自力で対応できる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、マニュアルを参照しながら自力で対応できる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、自力では対応できない
	話す	説明能力 プレゼンテーション能力 コミュニケーション能力	公の場で、相手の理解度や受け止め方を読み取りながら、説得力のある説明・魅力的なプレゼンができる。質問や批判をコミュニケーションの機会と受け止めることができる	公の場で、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションに難があり、質問や批判には思わず身構える	フランクな場では、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションもとれ、質問にも平静心で答えられる	親しい人たちとの気楽な会話・コミュニケーションはできるが、第三者への論理的な説明やプレゼンはできない
2 社会生活力	生活力	自立した生活を実践できる力	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースが安定したペースで送ることができる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができる	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースが乱れがちである。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなせない(うっかり忘れる)ことがある	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースがしばしば乱れる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなせないことが多い	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースが安定したペースで送ることができない。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができない
	人間関係構築力	生活を送る上で必要な、人間関係を円滑にするための力	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、常々確実に遵守できる	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、時に違えることがある	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、しばしば遵守できない	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、遵守できない
	情報収集力	生活を送る上で必要な情報のありかや、入手方法を把握する力	書籍を含む各種メディアや人脈等を広汎かつ有効に活用して、情報の入手方法を的確に把握し、必要な情報を確実に入手できる	情報のありかも情報を入手するための新たなルートの開拓方法も把握している。しかし各種メディアの活用や人脈等が不十分で確実性に難がある	生活を送る上で必要な情報のありかはある程度把握している。しかし情報を入手するための新たなルートを開拓する方法は分からない	生活を送る上で必要な情報のありかが分からない。どうすれば情報を入手できるかも分からない
3 行動力	主体性	物事に進んで取り組む力	物事を自分の問題として受け止め、指示や命令・切迫した必要などが無くとも、自らの定見・計画に基づき、自主的に判断して取り組むことができる	明確な義務を伴う事案については、責任感から率先して取り組むことができる	自らの利害や、興味関心が強い事柄については、自主的に取り組むことができる	指示や命令・切迫した必要があっても、できるだけ他人の後に付いていくことを考え、積極的に取り組むことができない
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	立場の異なる人や初対面の人にも、課題について説得力のある説明をし、協力を促すことができる。また、自分の意見に固執せず全体を纏めることができる	学生同士など、立場の近い人に対しては、さほど親しくなくとも課題を分かりやすく説明し、協力を促すことができる。また他のメンバーへの気配りもできる	親しい友人に対しては、課題について説明し、協力を促すことができる	第三者に対して課題を説明し、協力を促すことができない。或いは、協力は促せるが発言の独り占め・攻撃的言動等で協力者の意欲を阻害させがちである
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	明確な目的を設定し、自分の能力や客観的な諸条件を的確に踏まえた計画を立て、迅速かつ粘り強く行動していくことができる	目的を設定し迅速に行動していくことができるが、計画性に難があり、迷走することもある	目的を設定し、行動して行くことができるが、迅速さや粘り強さに難があり、所期の目的を達成できないこともままある	目的を設定できない。あるいは設定してもその達成に向けて確実に行動することができない
	対応力	物事に流されず疑問に思い主体的に対応する力	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、客観性や自らの定見に照らして疑問がある事柄には、関係情報を検討・確認した上で主体的に対応する	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、自分の意見に合わないものであれば反対の意思表示をすることができる	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見に疑問を感じることもあるが、敢えて主張することはしない	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見には、疑問を抱かず従ってしまいがちである
4 思考力	課題発見能力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	現状を分析し、背景や原因を追及した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握し、明確に言語化して第三者にも提示できる	現状を分析し、背景や原因を追及した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握できるが、明確に言語化することができない	現状を分析し、背景や原因を追及することはできるが、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握することができない	現状を、漠然とした諸事象の集合としてしか認識できず、分析や課題発見ができない
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	解決の為のプロセス案を複数用意でき、最善の物を選んで解決までの具体的手順・作業内容・時間配分等を、チーム活動のレベルで構築できる	解決の為のプロセスを立案し、解決までの具体的手順・作業内容・時間配分等を、個人活動のレベルで構築できる	解決の為のプロセスを立案し、解決までの道筋を構想できる	解決の為のプロセスを立案することができない。或いは、立案はできるが解決までの道筋を構想できない
	想像力	課題が抱える影響課題解決方法の影響等、ものごとをイメージする力	課題自体や解決に向けた取り組みがもたらす影響といった「目に見えない物」について明確なイメージを持ち、その得失を念頭的確な対応ができる	「目に見えない物」をイメージでき、その得失を念頭に対応を考えるが、イメージの多様性と明確さに難があり、的確な対応策を描けない	「目に見えない物」をイメージし、その得失を念頭に対応を考える必要性は認識しているが、明確なイメージを描けない	課題自体や解決に向けた取り組みの影響といった「目に見えない物」についてイメージすることができない。またイメージする必要性を自覚しない
	課題解決能力	課題の本質を捉え、適切な解決に導く力	課題の本質を捉え、解決のための勘所を明確にした上で、具体的な取り組みに必要な条件を整えて確実に解決に導くことができる	課題の本質を捉えることができ、解決のための勘所を明確にできるが、具体的な取り組みに必要な諸条件の整備に難があり、失敗も多い	情報を客観的に分析して課題の本質を捉えることができるが、解決のための勘所を捉えることができず、適切な解決に導くことができない	周辺情報や個人的利害・感情等に囚われて、課題の本質を捉えることができず、課題解決に取り組めない
5 チームワークینگ能力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	自分の意見を、相手の立場や前提となる知識・文化的背景の違い等も視野に入れて整理し、分かりやすく説得力のある内容・話法で伝えることができる	自分の意見を論理的に整理し、知識・文化の共有が乏しい相手に対しても、明確な内容・話法で伝えることができる	自分の意見を、家族や友人等、基盤となる知識・文化を共有する相手に対しては、その共通性に依拠しつつ分かりやすい内容・話法で伝えることができる	自分の意見を整理し、分かりやすい内容・話法で伝えることができない
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	話者が話しやすい環境を作り、適切なタイミング・内容の質問等で話者の意図を更に引き出しつつ、最後まで集中力を切らさずに聴くことができる	話者が話しやすい環境を作り、最後まで集中力を持って聴くことで、話の筋を正確に把握できる	一見最後まできちんと聴いているが、集中力が続かず、話の筋を正確に把握できない	目を逸らしたり話の腰を折ったりして、話者にとって話しにくい条件を作ったり、注意力を切らして最後まできちんと聴くことができない
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	相手の意見・立場になっって考え、「違う」ことを前提に、相手を理解することができる。自分の意見に固執せずアドバイスを進んで受け入れられる	自分と異なる意見・立場があることを認識でき、アドバイスも素直に受け入れることができる	自分と異なる意見・立場への違和感が強く、アドバイスを受け入れることに抵抗感が強い	自分と異なる意見・立場が存在することを許容できない。アドバイスを攻撃と受け止め、受け入れることができない
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	組織における自分の責務を正確に認識し、自分の意思や言動が相手にどう影響するかを考慮しつつ、組織全体を視野に臨機応変な対応ができる	組織における自分の責務を正確に認識し、組織全体を視野に入れて行動しているが、相手への影響を気にしすぎて臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識はあるが、自分の意思や言動が相手にどう影響するかという意識に乏しく、臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識が無く、物事を自分中心にしか考えられないため、臨機応変な対応ができない
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	法令や規則は勿論、チーム内での取り決め等についても、決められたことは不本意でも遵守する。高い倫理観を持ち、自ら公平公正に努める	法令・規則・チーム内の取り決め等、明確に決められたことには従うが、公平公正等、本人の倫理観に拠る事柄への意識は高いとは言えない	罰則を伴う法令や規則等は遵守するが、チーム内の取り決め等は軽視する。公平公正への意識が低く、往々にして我田引水に陥る	時間厳守等、社会常識レベルの取り決めも遵守できない。公平公正への意識が低く、しばしば我田引水に陥る
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	ストレスを感じても成長の機会と前向きに捉え、平穏心で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。また、気晴らしの方法を持っている	ストレスを感じても平穏心で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。しかし前向きに捉えたり気晴らしをすることはできず、不満を蓄積させる	ストレスを感じても投げ出さず、概ね適切に判断し課題を遂行できる。しかし気晴らしの方法もなく、終始イライラして攻撃的になる	ストレスを感じると、適切な判断や課題遂行ができなくなる。気晴らしの方法もないため、終始イライラして攻撃的になる

個人の達成目標ルーブリック

学籍番号:

氏名:

(1) 根力の構成要素	(6) 比重	(3) 卒業時の理想像	(5) 2015年度末にできればここまで達成したい	(4) 2015年度末にここまででは達成したい	(2) 現状

*** 2015年度のプロジェクト実習の履修を始めるに当たり、現状と年度末の達成目標を文字にして確認しておきましょう**

- (1)の水色部分に、根力の構成要素ルーブリックで選んだ「プロジェクト実習履修を通じて強化したい項目」をコピーして下さい
- (2)の黄色部分に、自分の現状を記して下さい。**根力の構成要素ルーブリックの文言を踏まえつつ、自分の言葉で記して下さい**
- (3)の黄色部分に、「2015年度末での実現可能性」とは一切関係なく、「卒業時に、こうなれたら理想、こうなることが目標」という姿を記して下さい
- (4)の黄色部分に、「2015年度末には、ここでは実現したい」という事柄を記して下さい(ハードルが高くなりすぎないように設定するのがコツです)
- (5)の黄色部分に、「2015年度末に、できればここまで実現したい」という事柄を記して下さい(ちよつと大変だけれど、頑張れば何とか・・・というレベルを設定するのがコツです)
- (6)の桃色部分に、それぞれの項目にかける比重を100になるように記して下さい(例えば、上から順に「60」「30」「10」という具合にメリハリをつけるのがコツです)

*** 黄緑部分は、年度末のリフレクションで使用します。当面、空欄にしておいて下さい**

事例シナリオ学習の運用と教材の作成

事例シナリオを用いた授業は、プロジェクト実習A～Dの履修学生が一堂に会し、「事例シナリオ」を読んで、「事例シナリオ課題1～4」（以下に収載）に取り組み、最終的に「履修者全員としての答案」を作成するという内容です。

具体的な授業は、以下の手順で進めます。

- (1) 教員側は、プロジェクト実習A～Dそれぞれに合わせて4種類のシナリオ（＝「事例シナリオA」「同B」「同C」「同D」と、A～Dに共通の「事例シナリオ課題」を1種類準備する
- (2) 学生は、自らの履修するカテゴリのシナリオを選択する
- (3) その上で「事例シナリオ課題」への「個人としての解答」を作成する
- (4) (3)を、プロジェクト実習A～Dのカテゴリごとにグループを組んで議論し、「グループとしての解答」を作成する
- (6) その上で、プロジェクト実習A～Dのカテゴリを越えて、それぞれの「グループとしての解答」を共有・議論し
- (7) 最終的に、「プロジェクト実習履修者全体としての解答」を作成・共有する

意図する所は

- (1) プロジェクト実習履修者がこれから遭遇するであろう状況を、デフォルメされたキャラクターで構成されたシナリオで疑似体験させ
 - (2) チームメンバーそれぞれの個性を分析し
 - (3) チーム活動において、個性を異にするメンバーそれぞれの「あるべき姿」を考えさせ・議論させ
 - (4) 議論の結果と自らの姿を対比させることで、今後、現実の活動の中で自らが採るべき行動・言動について「あるべき姿」を自覚させる
- 所にあります。

このため、教員が準備する4種類の事例シナリオには

- (1) シナリオ中で示される具体的な問題状況は、プロジェクト実習A～Dそれぞれの状況を踏まえた・履修者にとって実感が持てる内容である
- ことが必要であると同時に
- (2) 登場人物のキャラクターや、発生する問題が統一的に定義されている
- ことが必要となります。

以上のことから、今年度の「事例シナリオ」は

- (1) 学生A～D並びに課題提案者Z氏のキャラクターを設定し、「プロジェクト実習B（地域連携・地域貢献）」で想定される問題状況を念頭に、「事例シナリオB」（次頁に収載）を作成し
 - (2) 事例シナリオBを雛形とし、「プロジェクト実習A（総合）」「同C（国際交流異文化理解）」「同D（PBL型インターンシップ）」それぞれで想定される問題状況を念頭に、「事例シナリオA」「同C」「同D」を作成する
- という手順で作成しています。

事例シナリオB

「奥山カボチャのブランド化」

* Zさん：生産者代表。過疎・高齢化に悩む、奥山村青年団長・55歳。現状への危機感と奥山カボチャを活用した改善策への意欲はあるが、現時点では「願望」レベルに留まっており、独自の「情報収集」「分析」「課題設定」「企画」はない。

Z：奥山カボチャは、奥山村の在来種でとてもおいしいカボチャです。これをブランド化して村の活性化に繋げたい。いいプランを考えてください。

A：地味～。それに俺、カボチャ嫌いなんだよなー。

B：村おこしにご当地産品か。よくあるパターンだな。

C：ジェラートとかあ～コロッケとかあ～・・・お酒にはできないのかな？かわいいゆるキャラ作りたーい♥。

D：よし、じゃあさっそくゆるキャラのデザインを描いてみよう！

A：だりい～。カボチャ臭え酒なんて飲みたかねえ～。

C：かわいいゆるキャラの着ぐるみでえ～、ジェラート売ったらあ～、きっと女の子に人気が出るよお～。おしゃれなお店でえ～、イケメンのソムリエさんがいてえ～、ゆるキャラのコスプレでえ～、カボチャワインをテイastingなんかしてくれてえ～♥

A：それって、おもいっきしシュールじゃね？

B：そもそも「奥山カボチャ」って何なんだ？在来種でおいしいって言われたって、見たこともないし。それに「村おこし」って言ったって、実際の所は何も知らないし。

D：早速ググろう！え～と、まずは「奥山」「カボチャ」「在来種」っとお！

A：そんな検索じゃ、欲しい情報なんて出てこねえんじゃね？俺やるわあ。かしてみ。

C：じゃあ私、カボチャプリンの試作してみるね～♥

B：いや、そうじゃなくて！一口にブランド化って言っても色々なんだから、まずはゴールの具体像を考えなきゃ。そうさ、Zさんはどういう基本戦略をお考えなんですか？

Z：いや、なんにも。奥山カボチャが高く売れて、奥山村が有名になったらええなあ・・・

B：ご当地産品で村おこして、いろいろ先行事例もありますよね。うまくいってないケースも多いんじゃないですか？その辺は・・・

Z：いやあ～・・・わがんね。

A：調べたの、ここ置いとくぜー。俺、バイトあつから先帰るわあー。

D：こらっ、待てえ！みんな協力して取り組めって言われてっだろ！

A：バ～イ

B：へー、短時間でよくここまで調べたな。まずはこれで情報共有から始めようか？

D：よし、B。お前リーダーやれ。ほら、あるだろ。プレーンストーブとか何とか言うの。

B：ブレインストーミング！でも僕は知的分析者だ。リーダーなんて勘弁してくれ。

D：くおらあ！口先だけかあっ！！

事例シナリオ課題

- (1) 課題1・3・4は、課題文の直下に記入して下さい。必要に応じて行を追加して下さい。
- (2) 課題3は、シナリオに赤字で直接書き加えて下さい。
- (3) 5/28・13:00までに、レナンディ「課題02 事例シナリオ解答」に提出して下さい。
- (4) 5/29の授業に、プリントアウトを一部持参して下さい（「文字カウントの仕方」部分は不要）。

課題1

シナリオA～Dの中から、自分の所属カテゴリに相当するものを選び、登場人物A・B・C・Dの、それぞれのキャラクター（「良い所」と「悪い所」の両方）を、下記の例を参考に＜ごく簡潔に＞記して下さい。

＜例＞

X：良い所：目配り・気配りが得意で名サポーター。

悪い所：引っ込み思案で積極性に欠ける。

課題2

あなたのキャラクターを念頭に「登場人物 E」を設定し、「自分だったら、多分無意識にこういう行動・言動をとるだろう」（＝現状の自己分析）という内容を、このシナリオに3～4箇所、書き加えて下さい。

→選択したシナリオの当該箇所に空白行を設け、赤字で書き込んで下さい。

→シナリオには、予め1頁当たり4～6行の余裕が設けてあります。文言を工夫して、できるだけ1頁に収まるように記して下さい。

課題3

あなたがこのチームの第5のメンバーで、かつリーダーに選出され（てしまっ）たとします。「奥山カボチャのブランド化」という課題に、このチームを率いてどのように取り組んでいきますか？

→この下に、黒字で記入して下さい。長さは自由です。

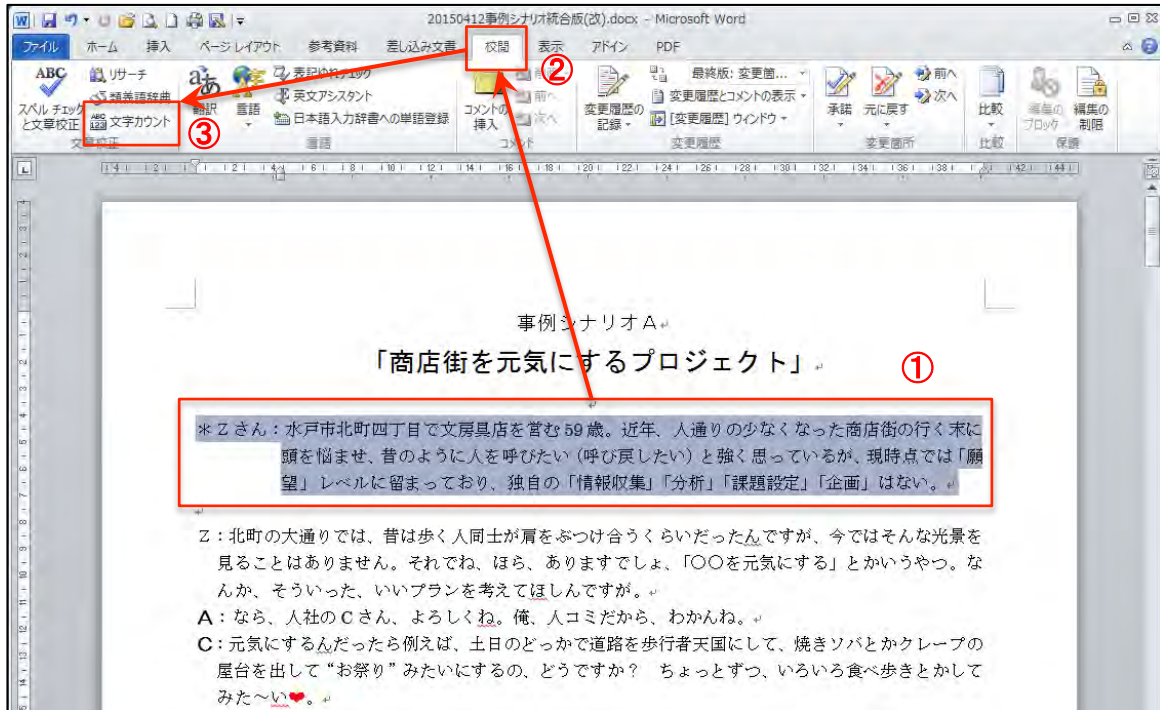
課題4

あなたが今後このチームの有力な戦力として課題に取り組んでいくためには、どういう風に行動していくべきか（＝行動目標）を、先に規定した「この授業で高めたい根力（ねぢから）構成要素」に即して、またあなたがチーム内で実際に担う役割（リーダー・サブリーダー・書記・会計・渉外・・・等）を踏まえて、400字程度にまとめて下さい。

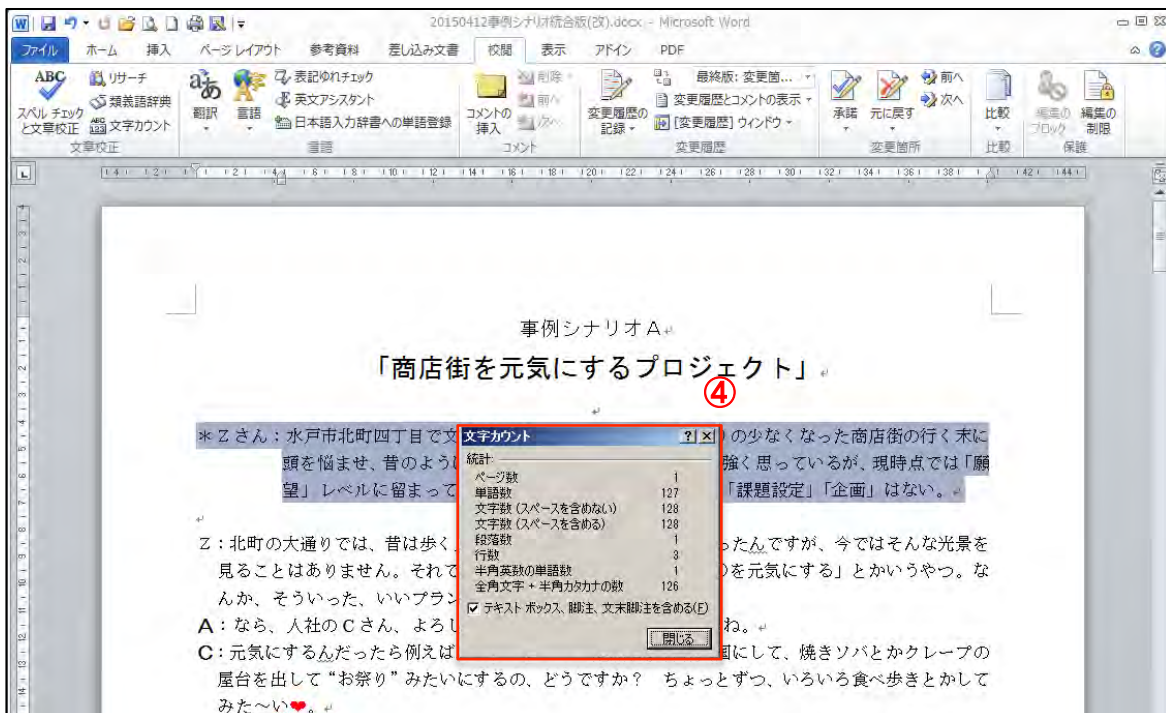
→この下に、黒字で記入して下さい。文字カウントの方法については、最終頁を参照して下さい。

文字カウントの仕方

- ①カウントしたい部分を範囲指定する
- ②「校閲」のタブをクリックする
- ③「文字カウント」をクリックする



- ④範囲指定した部分の文字数が表示される



*①で範囲指定を忘れると、「文書全体の文字数」がカウントされてしまいます。注意して下さい。

ブレインストーミング（BS）と KJ 法の心得

1 : BS はアイデア出し。

難しいことは考えず、とにかく質より量で発言する。

大脳はお休みさせて本能と感性の赴くままに「垂れ流す！」

そのために

(1)質より量：一言でも多く発言する

(2)自由奔放：他人の目を気にしない。変な見栄や遠慮は NG

(3)尻馬推奨：他人の意見を踏まえて「さらにこんなことも・・・」というアイデアを出す

(3)批判厳禁：BS はひたすらアイデアを出す場面。議論の場ではない。批判は(1)～(3)の

障害となり、BS 全体の意義を損なうので厳禁！！

2 : KJ 法は構想の取りまとめ。BS とは打って変わって大脳全開！

第 1 ステップ：カードをばらばらに広げる。

第 2 ステップ：関連性のあるカードを重ね、見出をつける。

第 3 ステップ：第 2 ステップで作った小グループの見出を眺めながら、親近性のあるグループをより大きなグループへとまとめていく。

第 4 ステップ：グループ間に論理的な関連性ができるよう大グループのカードの束を並べ替える。→配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでしゃべれるようにする、のがコツ。

第 5 ステップ：大グループごとに、中身を検討。

第 6 ステップ：完成形を記録（写真等）

第 7 ステップ：記録を見ながら、すべてのグループのうちどれが重要／やりたいと思うかを議論。（上位 3～5 件を選出する投票も有効）合意形成へ。

KJ 法の手順

(川喜田二郎『発想法』中公新書、1967年；『続・発想法』中公新書、1970年)

第1ステップ：

まず、BS等の手法で作られたたくさんのカードをばらばらに広げてみます。

第2ステップ：

カードに記載された「1行見出し」を眺めながら、関連性のあるカードを重ねていきます。最後に、それぞれのグループの内容を簡潔に表す見出し＝「表札」をつけて上に載せます。その上で、それぞれのグループのカードを輪ゴムで束ねます。

*第2ステップの作業では、以下の点に注意して下さい。

- ・1グループのカードは最初は数枚程度。はじめから大きくまとめようとしない。
- ・1枚のまま残る「一匹オオカミ」があってもかまわない。無理に他のグループと一緒にしない。

第3ステップ：

第2ステップで作った小グループの「表札」を眺めながら、互いに親近性のあるグループを中グループにまとめます。この作業を何度かくりかえし、10近くの大グループにまとまったらグループ化作業は終了です。

大グループにも表札をつけますが、グループ分けがすべて終わってからというのではなく、カード全体の3分の2程度がまとまってきたところで、グループ分け作業と並行して表札作りを進めて下さい。

第4ステップ：

ここからいよいよ論理的整序の段階に入ります。グループ間に論理的な関連性ができるよう大グループのカードの束を並べ替えます。「空間配置」と呼びます。配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでしゃべれるようにする、というのがコツです。

第5ステップ：

空間配置ができれば、カード束の間隔を広げ、それぞれ1段下の段階までほぐしてみます。その上で、もとのグループの範囲内で、ただし隣接する大グループ（およびその1段下の束）との親近性に注意しながら中グループレベルの空間は一を行います。これでカードの作業は終了です。

第6ステップ：

カードで作った空間配置を別の紙に写し取るのが次のステップです。その際、上の図のように、グループ間の関連の内容を示す記号を使って、空間配置の論理連絡が分かるようにします。たとえば次のような記号を使います。

第7ステップ：

いよいよ最後のステップです。図を見ながら、すべてのグループのうちどれが重要と思うか、各自最高5点から1点の順で点数をつけます（6番目以降は点数をつけない）。総得点が最も高い5つのグループをゼミでのグループ研究のテーマとします。研究にあたっては、KJ法によってえられた中テーマ等が主要な研究項目となるでしょうし、また図解の「因果連関」も重要な指針を与えてくれるでしょう。

プロジェクト実習B

さとみ・あい活動報告

さとみ力伝え隊
 箭内淳美 山田真理子 南陽子 山口奈穂 山口未来
 泉美・ゆう
 大枝俊貴 鈴木透 助川実咲 小林希望
 全体統括
 井上紗希 千葉美香 星野由季菜

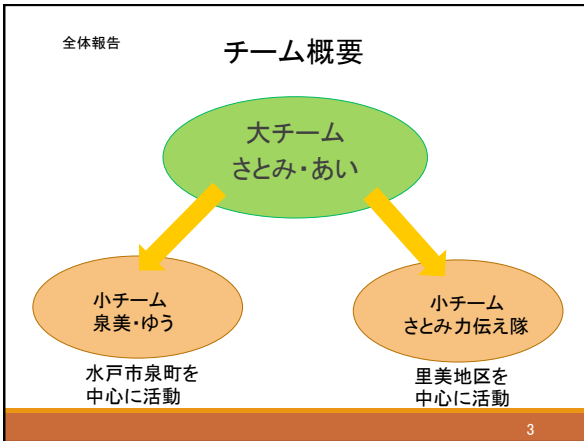
1

全体報告

全体目次

- 1、チーム概要
- 2、さとみ力伝え隊活動報告
- 3、泉美・ゆう活動報告
- 4、まとめ

2



さとみ力伝え隊報告

さとみ力伝え隊報告 目次

1. 活動の目的
2. 今年度の活動
3. 活動内容
 - ・・・里川カボチャ収穫祭
 - ・・・SNS広報
4. 反省点
5. よかったこと、学んだこと
6. 今後の展望

4

さとみ力伝え隊報告

活動目標

- 学生視点で里美をPRする
- 里美を外の人に知ってもらおう
- 里美との新たなつながりづくりのお手伝いをする

- SNSを利用した広報の活発化
- イベントを成功させ、里美のファンを増やす
- 持続可能な活動を心がける
- 外部との連携の強化

5

さとみ力伝え隊報告

今年度の主な活動

【イベント】	【情報発信】
6月14日 里美訪問	SNS広報活動
8月10日 里美訪問	
9月28・29日 PBL里美合宿参加	
10月17日 <u>里川カボチャ収穫祭</u>	
10月30～	
11月1日 秋の味覚祭参加	

6

里川カボチャ収穫祭(10/17)

【目的】

- ・里美に実際に足を運んでもらうきっかけを作る
- ・里美について知ってもらう
- ・他大学との交流を図る

【方法・内容】

- ・里川カボチャ収穫祭
- ・レクリエーション
- ・里川カボチャを使った軽食の提供
- ・観光スポットの一つである「横川の下滝」案内

概要

活動場所: 常陸太田市里美地区

参加者:

常磐大学様、茨城キリスト教大学様、
水戸農業高等学校様、さとみ・あいより
生徒、学生、教員合わせて31名で実施

当日の様子



収穫祭成果 アンケート

参加者に、事前に作成したアンケートを配布

回答者

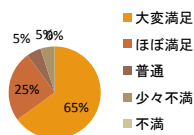
参加者20名(さとみ・あいメンバー以外)

質問は「はい」か「いいえ」の二択と自由記述によるもの

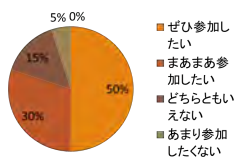
質問は全部で6項目

【成果】アンケート結果

収穫祭満足度



収穫祭にまた参加したいか？



【特にどのスケジュールが良かったですか？(複数可)】

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1位 かぼちゃ収穫 14 | 4位 道の駅 5 |
| 2位 レクリエーション 9 | 5位 かぼちゃ試食会 5 |
| 3位 里美地区観光・横川の下滝 8 | 6位 その他 3 (お昼)(全部) |

アンケート(自由記述)

「収穫祭を通して里美に対する印象は変化したか？」

・自然、特産物、里美の人の良さなどを知り、里美は素敵な場所だと感じた。

「感想・その他」

・大学、高校の学生、生徒、そして教員の方々と交流し、楽しい時間を過ごせた。

・試食会に水農の食化も入れていければより面白いのではないかな。

・グッズの開発(どこに頼むか)などがあると楽しい。デザインをさとみ・あいに、トータルなPR(食・自然・地域伝統文化)パンフレットを太田市役所に提案してはどうか。

良かったこと・反省点

良かったこと

- ・役割分担を明確にして進めることができた
- ・当日はほぼ定刻通りに進めることができた
- ・全体として好評を頂けた
- ・他学校の皆さんと協力して進めることができた

反省点

- ・細かい部分まで調整が行き届いておらず、様々な事態に対応しきれない部分があった。(特に天候)
- ・役割を明確にした分、自分の作業のみに固執してしまった部分があった。

13

活動報告② SNS広報

- Facebookの「いいね！」 94人
 - Twitterの「フォロワー」 78人 (2015年6月2日時点)
- 目標・・・今年度末までに倍増させる！

2015年12月3日時点で

○Facebook 108人

○Twitter 172人

←達成！！

14

反省点、改善点

○更新回数

Twitter 昨年度7回、今年度25回

Facebook 昨年度25回、今年度12回

- 広報としてより即時性の高いTwitterに力を入れた
- 更新頻度が高いほど人の目に留まる回数が多くなる

- ・行事のたびに更新することができた
- ・どのように更新したらフォロワーや言い値が増えるのかもっと検討が必要だった
- ・イベントや行事のほかに、里美地区の情報なども併せて発信していけたらよかった

15

反省点(年間の活動を通して)

- ・余裕のある時期にもっと活動ができたのではないかな
- ・小チーム内での意思疎通はできていたものの、大チーム全体での分担などがあいまいで、うまく動けないことが多かった
- ・小チームの活動にどのくらいかかわるべきか距離感を図ることが難しかった

16

良かったこと・学んだこと(年間通して)


- ・チームメンバー全員が地域の方々と密接に関わることができた
- ・メインの活動を絞ったことで、集中して取り組むことができた
- ・小チーム内での意思疎通、役割分担がうまくいった
- ・目的を持って行動することの重要性を考えることができた
- ・ただやみくもに目先のことをこなすのではなく、自分たちが何をするためにどんなことをすればいいのかを考えることができた

17

今後の展望

- 広報に力を入れる
 - ・・・里川カボチャを多くの人に知ってもらうための活動
 - ・・・学内など身近なところに向けて活動する
- 外部の方がもっと里美に足を運び易くなる方法を考える
- 何が里美のためになるのか」ということを常に考えて活動していく
 - ・・・地域の方々との交流を充実させる

18



ご清聴ありがとうございました！

さとみ力伝え隊の報告は以上です
以下、泉美・ゆうチームの報告です

19

泉美・ゆう報告

泉美・ゆう報告 目次

「泉美・ゆう」概要
活動内容
学んだこと・得た知見
お世話になった方々

20

泉美・ゆう報告

「泉美・ゆう」概要

【由来】
水戸市「泉」町二丁目商店街振興組合
+
常陸太田市里「美」地区 「泉美」
二つの地域を結ぶ 「ゆう(ゆう)」

【誕生の経緯】
前身である「イズミル」と「さとみ・あい」の連携をきっかけとする

【目的】
水戸を拠点とした双方のPR活動⇒地域の振興

21

泉美・ゆう報告

活動内容

○里美の特産物販売ブース「里美・カフェ」の運営

- ・第一弾 泉町会館をお借りして
- ・第二弾 「水戸まちなかフェスティバル」への出店
- ・第三弾 「茨苑祭」への出店

○リーフレット

- ・泉町・里美双方の魅力を一枚に掲載
- ・「入口をふたつに」
- ・一年を通じた私たちの体験記



22

泉美・ゆう報告

販売した里美の特産物

里美牛 ⇒ カレー・牛丼 

里川かぼちゃ ⇒ デザート
(果肉ジェラート・タルト・マドレーヌ) 

飲むヨーグルト 

里美コーヒー 

23

泉美・ゆう報告

学んだこと・得た知見

- ①「つながり」
- ②「コミュニケーション」
- ③「組織」
- ④「活動の中で」

24

①つながり

○「つながり」は「つながり」を呼ぶ

<水戸農業高校様との「つながり」>

前年の食品化学科様とのつながりが農業科様とのつながりへ

<リビングループとの「つながり」>

泉町二丁目振興組合様とのつながりが芸術とのつながりへ



○「つながり」は副産物を産む

農業科様との連携

→「さとみ・あい」大チームでの収穫祭に水戸農業高校生が参加



①つながり

○「つながり」は「つながり」を呼ぶ

<水戸農業高校様との「つながり」>

前年の食品化学科様とのつながりが農業科様とのつながりへ

<リビングループとの「つながり」>

泉町二丁目振興組合様とのつながりが芸術とのつながりへ



○「つながり」は副産物を産む

農業科様との連携

→「さとみ・あい」大チームでの収穫祭に水戸農業高校生が参加



「つながり」を大事にすることは、身を助ける

⇒私たちは「つながり」を大事にできていたか？

「コミュニケーション」

②コミュニケーション

○「連絡」は密に、常に更新を

打ち合わせで起こってしまった齟齬

○伝わってこそ「連絡」

誤解を招く表現

自分たちが分かっていることを省く

緊急性のあるメールの書き方

これらは、失敗を通して学んだこと

⇒なぜ失敗が起こったのか

「組織」の弱さがあった。

③「組織」

○役割

頼み方…相手の得意な部分を。なぜ、その人に頼むか明確に。

自分で全てやろうとすることの危険性

○ぶつかりあいはマイナスではない

モチベーションの違いを埋める作業

○共有

ハード面では充実していた EX)DropBox RENABDIの使用

打ち合わせの組み方

ここまでは、一般的なこと

⇒最後は、「泉美・ゆう」で活動してきた私たちだからこそ学べたことを。

④「活動の中で」

○ひとりよがりの解消

アンケートの実施(対象と内容)

○マーケティング

どんな層をターゲットとして、どうすればその層に届く？
いかにブースの中に集客をつかっていくか

○誘う難しさ

魅力を言葉にすること

目的の達成度

お客様の声(カフェにて)

- ・「里美牛？」⇒メニュー等で里美を強調したことで興味のきっかけとなれた。
- ・「おいしいカレーでした」⇒里美牛のPRとしては疑問符が残る
- ・「今年もかぼちゃ買いに来たよ」⇒独力ではないが、確実に人気を得ている。
- ・「タルト、美味いって聞いてきました」⇒茨苑祭で販売するという戦略の成功。

先輩方が作成したリーフレットの配布

⇒リーフレットのPRに対する有用性を実感。

「さとみ・あい」としての活動も相まり、水戸での里美のPRはますます。
しかし、泉町のPRにおいてはその限りでない。

PR

お世話になった皆様

- 荷見様始め里美地区の皆様
- 豊田紀雄様始め里美ふるさと振興公社の皆様
- 白石様始め常陸太田市里美支所の皆様
- 宮本総太郎様 始め泉町二丁目商店街振興組合の皆様
- 森山純子様(水戸芸術館様)
- 茨城県立水戸農業高等学校様
- 新堀俊博先生(食品化学科様)
- 磯野貴志先生(農業科様)
- 池澤正博先生(農業科様)
- 茨城大学教職員の皆様

ご清聴ありがとうございました！



さとみ・あい 公式キャラクター
おさとちゃん



Twitter @satomi_ai
@izumi_u_satomi
face book さとみ・あい

異文化交流プロジェクト 活動報告会

(茨城大学 LINK)

(茨城キリスト教大学 DCE)

リーダー	藤堂みさ都	リーダー	栗原 大地
副リーダー	清野 絢	副リーダー	飯村 貴洋
書記	渡邊 悠	書記	大高 詩織
会計	富田 恵	会計	寺門美千花
渉外	野中 萌		
	櫻井 優美		

1

目次

- I. チーム概要
- II. 活動報告並びに結果報告
 - ①水戸まちなかフェスティバル
 - ②異文化交流フォーラム
- III. 先進地実地研修を受けて
- IV. プロジェクト実習全体を通して学んだこと
- V. お世話になった方々へ

2

I. チーム概要

大チーム：異文化交流プロジェクト

小チーム：

(茨城大学) LinK × (茨城キリスト教大学) DCE

〈活動目的〉

- ①留学生と地域を結ぶ架け橋になり、異文化交流のサポートをする
- ②日本の文化を留学生に伝える

3

II. 活動報告並びに結果報告

①水戸まちなかフェスティバル

日時：2015年10月25日(日)10:00～16:00

場所：(プロジェクト実習)泉町会館前

泉町二丁目商店街振興組合 宮本様のご協力の下、
LinKとDCEで各1ブースずつ確保して頂きました。

4

II. 活動報告並びに結果報告

〈LinK〉

内容：異文化ポテトの販売

形式：10種類のソースから1ソースを選択

↳各ソースをフライドポテトに添える販売形式

結果：販売個数 226食(用意したポテト完売)

売上 45,200円

5



II. 活動報告並びに結果報告

〈DCE〉

内容：海外のお菓子の販売

- カップケーキ : 販売個数 200個
- スコーン : 販売個数 78個
- タピオカジュース : 販売個数 45杯
- 合計売上金額 41,650円



6



II. 活動報告並びに結果報告

〈LinK〉

よかった点

- ・事前準備、後片付けがスムーズだった。
- ・役割分担がしっかりできていた。
- ・積極的に声を掛けることができた。

改善点

- ・客として留学生を招くことはできたが、売り子として呼ぶことができなかった。
- ・使用する物品の確認が不十分だった。

8

II. 活動報告並びに結果報告

〈DCE〉

よかった点

- ・トラブルがあった中でもメンバーの臨機応変な対応をとることができた。
- ・販売方法を工夫することができた。→店頭販売、売り歩き
- ・他のチームのメンバーと協力し、無事に完売することができた。

改善点

- ・事前リサーチ不足だった。→特にタピオカの試作
- ・販売品の試作の徹底を図るべきだった。
- ・事前準備の詰めが甘かった。もう少し余裕を持って準備、確認ができたならトラブルを防げた。

9

II. 活動報告並びに結果報告

②異文化交流フォーラム

日時：2015年11月29日(日)10:15～15:30

場所：茨城大学水戸キャンパス内 茨苑会館 談話室

参加者：高校生19名(茨城キリスト教学園高等学校様、水戸第二高等学校様、水戸桜ノ牧高等学校様、水戸桜ノ牧高等学校常北校様)

留学生14名(茨城大学、茨城キリスト教大学)

日本人大学生8名(茨城大学、茨城キリスト教大学) **計41名**

10

II. 活動報告並びに結果報告

〈全体の目的〉

高校生×留学生×日本人大学生の三者の交流の手助けをする。

〈昨年度までのフォーラムとの相違点〉

- ・「楽しく異文化を学ぶ」ことに重点を置いた。
 - ↳ 楽しさの中の学び⇔学びの中の楽しさ
- ・全体の規模を小さくし、より密の濃い交流になるようにした。
 - ↳ フォーラム後にも繋がる関係作り

11

II. 活動報告並びに結果報告

〈タイムスケジュール〉

企画 i：アイスブレイク(人間知恵の輪/鳥とかごゲーム)

企画 ii：座談会(グループ)

企画 iii：ワークショップ(異文化であることを体験できるバーンガ)

企画 iv：フリートーク

12



II. 活動報告並びに結果報告

〈アンケート結果〉

概要：回答者 41名中39名

全7項目 はいorいいえの回答方式+自由記述

Q. 今日のフォーラムは全体的にどうでしたか。

[分類名]
[パーセンテージ]

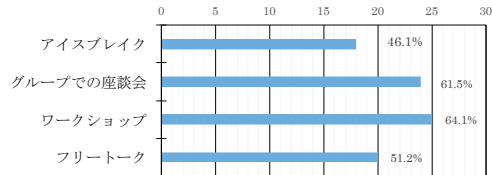


[分類名]
[パーセンテージ]

14

II. 活動報告並びに結果報告

Q. 今日のフォーラムの中でよかったものは何ですか。(複数回答)



15

II. 活動報告並びに結果報告

〈アンケート結果からわかること〉

- ・ 目的の差別化をしたことによって、各企画が意義のあるものになった。
- ・ 気軽に交流を楽しむことができた。
- ・ 留学生だけではなく、高校生や大学生の交流もあった。
- ・ 外国へのイメージがニュースなどによって固定されていたが、その国に行ってみなければわからないこともあることを知ることができた。
- ・ 高校生の英語に対する需要に応えることができなかった。

16

II. 活動報告並びに結果報告

〈よかった点〉

- ・ アクシデントが起きた時、臨機応変に対応することができた。
- ・ 参加者だけではなく、私達自身も楽しむことができた。
- ↳ 余裕を持って全体を見ることができたから。

〈改善点〉

- ・ 時間配分を考えるべきだった。
- ↳ はやく進み過ぎてしまった時の対処方法 など
- ・ シミュレーション不足な点があった。

17

III. 先進地実地研修を受けて

◇大学生として...

何事にも挑戦できるチャンスがある！
そのチャンスをどう活かしていくのか

苦手なことを克服する/
アプローチ方法を変えてみる/
諦めずに根気を持ってやる

◇チームとして...

スケジュールの調整/To doリストの作成
チームのために何が出来るのか/貢献できるのか

全員が共有・把握すること
⇒信頼関係を作る

◇チームリーダーとして...

責任感/正確性/親和性
メンバーの各意見を尊重する

「まとめる」ということ
チームの雰囲気作り

18

IV. プロジェクト実習全体を通して学んだこと

LinK × DCE → 二大学間の連携

(1) “情報共有”の大切さ

- 月に一回はミーティング ... 小チームから大チームへ、情報交換
- 密に連絡を取り合う ... SNSを最大限に活用する
わからないことはすぐに聞く
- 「ほうれんそう」の徹底 ... 全員が同じ情報を持つ
(報告・連絡・相談) チーム内で情報格差がないように

19

IV. プロジェクト実習全体を通して学んだこと

○うまくできなかった

- ・情報の伝え手と受け手の見解が一致しなかったことがあった。
例：発注の仕方

○うまくできた

- ・合同ミーティングまでの準備がしっかりできた。
- ・問題が起きたりわからないことがあったりした時にはすぐに確認を行った。
↳共通認識で行動、情報格差がないように
- ・RENANDIを上手く活用することができた。
- ・SNSを活用できた。

20

IV. プロジェクト実習全体を通して学んだこと

経験者×未経験者 先輩×後輩 チーム×連携先

(2) 信頼関係の構築

- 仕事を思いっきり割り振ること
↳分担したら全力でサポート ⇒不安感を払拭、安心感の誕生
- “頼る”ということを行動で見せること
↳経験者だけで話を進めない！⇒新しい視点からの考え

21

IV. プロジェクト実習全体を通して学んだこと

○うまくできなかったこと

- ・経験者だけで話を進めてしまう場面が多かった
↳新チームとして、昨年度までの経験が必要な場面とそうではない場面で区別をする

○うまくできたこと

- ・ミーティングを重ねるごとにチームの輪を広げることができた。
- ・役割によって同じ仕事量になるように割り振ることができた。
- ・少しずつ個人で行う仕事の幅が増えてきた。
- ・与えられたものをしっかり行うことによってチームに貢献することができた。
↳チーム意識を持つきっかけに

22

V. 御礼

○水戸まちなかフェスティバル

泉町二丁目商店街振興組合 宮本鑑太郎様
水戸まちなかフェスティバル実行委員会様

○異文化交流フォーラム

茨城キリスト教大学 文学部長上野尚美先生、国際理解センター長山中俊克先生
学校長鈴木龍夫先生、教頭大川通昭先生を始め、茨城キリスト教学園高等学校の皆様
学校長石崎弘美先生、谷萩淳子先生を始め、水戸第二高等学校の皆様
学校長野内俊明先生、教頭石井孝先生、神賀俊光先生を始め、水戸桜ノ牧高等学校の皆様
学校長野内俊明先生、野上敦子先生を始め、水戸桜ノ牧高等学校常北校の皆様
参加者の皆さん

23

ご支援、ご協力頂きましてありがとうございました。
チーム一同、心より感謝申し上げます。





活動報告会

市役所連携チーム こみっとフェスティバル班

佐藤 幸咲（リーダー） 堀本 朝沙（会計）
小野瀬 朝央（副リーダー） 安藤 有紀（書記）
西野 あゆみ（副リーダー） 寺澤 真風香（書記）
川井 紫々

1

目次

- チーム紹介・活動目的
- こみっとフェスティバルとは？
- 活動内容：
 - ・ 実行委員会
 - ・ インターンシップ
 - ・ ボランティア参加
 - ・ 水戸まちなかフェスティバル
 - ・ 茨苑祭
- 今後の予定：こみっとフェスティバル2016
- 謝辞

2

チーム紹介・活動目的

こみっとフェスティバルチーム

茨城大学の授業の一環であるプロジェクト実習において
結成されたチーム
水戸市役所と連携して活動

- ① 水戸市内の市民活動団体を知ってもらい利用を促進する
- ② 市民と団体とのつながりの架け橋になる

↓
こみっとフェスティバルの成功

3

こみっとフェスティバルとは？

水戸市内の市民活動団体間でのネットワーク作りや
団体の存在を知ってもらうことで
一般の方々に身近に感じてもらうためのイベント



4

こみっとフェスティバル実行委員会

- 開催：
 - ・ 毎月一回、水戸市役所にて開催
 - ・ (6/24、7/22、8/26、9/30、10/21、11/25、12/16予定、1/27予定)

〈成果〉

- ・ 運営に実際に携わる
- ・ 提案したテーマが採用

「知ろう！つながろう！きっとHAPPY！」

5

インターンシップ

- 実施日： 8月24日・25日、9月1日・2日、3日・4日
二名ずつ、二日間にわたり実施
- 場所： 水戸市役所 市民生活課
- 内容：
 - ・ 市役所内の研修を見学
 - ・ グループワークへの参加
 - ・ 水戸市の協働事業に関する概要を聴講

〈成果〉

- ・ 協働とは何かを学ぶ
→こみフェスの開催意義を再確認できた

6

ボランティア参加

- こみっとフェスティバルは市民活動団体のことを市民の方々に知ってもらうことが目標の一つ
 - ↓
 - 運営側にいる私たちが市民活動団体の活動を知らない！
 - ↓
 - 活動に参加して体感すること
 - こみフェス実行委員の皆さまと交流を持つこと
- を目標に、夏休みの期間を利用して3カ所の団体様の活動に参加

7

第2回小・中学生英語スピーチ大会

- 茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ 様
からのお願い
- 日時：8月2日（日）14：00～
- 場所：茨城県水戸生涯学習センター
- 参加者：佐藤・塚本・寺澤
- 活動内容：運営の手伝い
- 感想：
 - 授業とは異なった交流の場を提供することが、子どもたちにとって貴重な良い経験になるのではないかと

8

こども広場ひまわり

- 内原すみれの会 様 からのお願い
- 日時：8月20日（木）14：00～
- 場所：水戸市内原中央公民館
- 参加者：安藤・塚本
- 活動内容：子どもと遊ぶ
- 感想：
 - 家庭環境に悩む子供がいるということを考えるきっかけとなった

9

老人ホームへの訪問

- はつらつサークル 様 からのお願い
- 日時：8月27日（木）13：30～
- 場所：介護老人保健施設 ナーシングホームかたくり
- 参加者：安藤・小野瀬・佐藤
- 活動内容：レクリエーションのお手伝い・お話
- 感想：
 - ボランティア活動の必要性、大変さを理解できた

10

○ 全三カ所のボランティア活動に参加して・・・

- 普段の生活では関わることの少なかった人々と交流することができ、貴重な体験となった
- 私たちのような若い年代のボランティアの方が少ないように感じた

- もっともっとボランティアの存在をたくさんの人に知ってもらいたい気持ちが強くなった
- こみフェスとそのきっかけとなるように改めて全力で取り組んでいきたい

11

水戸まちなかフェスティバル

- 日時：10月25日（日）10：00～16：00
- 場所：泉町二丁目商店街振興組合様のスペース
- 内容：
 - パルーンアート・・・ばるーん・レインボー 馬場 様 との連携
 - 展示・・・こみっとフェスティバルの紹介



12

〈成果〉

- ばるーん・レインボー 馬場 様のご指導の下、バルーンアートを子どもたちに教えることができた。
- 子どもやその保護者の方々が多く来客し、バルーンアートを楽しんでくれた。
- 同時に展示やピラ配布をし、「こみっとフェスティバル2016」の宣伝ができた。
- 水戸まちなかフェスティバルの出店の目的の一つである「企画・運営を学ぶ」ことができた。



13

〈反省点〉

- 役割分担が不十分であった。
 - 予想以上の集客数であったため、始まりで戸惑ってしまった。
- ⇒バルーンの指導役や宣伝役だけでなく、全体を取りまとめる**指示役**をつくるのがポイントであった。



水戸まちなかフェスティバルでの成果や反省点を茨苑祭や「こみっとフェスティバル2016」で活かしていく。

14

茨苑祭（茨城大学 学園祭）

- 日時：11月14日（土）9：30～17：30
15日（日）9：30～17：00
- 場所：人文講義棟23番教室
- 内容：
 - ・ 14日 **カブラ（積み木）**
 - ・ ・ ・水戸こどもの劇場 様 との連携
 - ・ 15日 **連鶴・折り紙教室**
 - ・ ・ ・はつらつサークル 様 との連携
 - ・ 展示：こみっとフェスティバルの紹介



15

〈成果〉

- 2日間での来客数が116人であった。
- 水戸まちなかフェスティバルでの反省点であった役割分担をしっかりと定めて取り組むことができた。
- 遊びながらコミュニケーションをとることで、「こみっとフェスティバル2016」にも興味を持っていただくことができ、宣伝も十分にできた。



16

〈反省点〉

- 外で宣伝をする際に、天候が悪いときの対策がとれていなかった。
- 他のチームとの連携・連絡が少し足りていなかった。

⇒予測することや確認しあうことの必要性を学んだ。



17

今後の予定

こみっとフェスティバル2016

日時：2016年2月20日（土）
10:00～16:00

会場：イオンモール水戸内原
1階メインコート 2階イオンホール



18

謝辞

- 水戸市市民協働部 市民生活課 協働係 鬼沢様 田治様 皆さま
- 茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ 谷萩様・皆さま
- 内原すみれの会 井川様・皆さま
- はつらつサークル 平沼様・皆さま
- ぱるーん・レインボー 馬場様・皆さま
- 水戸こどもの劇場 袴塚様・皆さま
- 水戸市環境保全会議 高橋様・皆さま
- M・I・T・O 21 横田様・皆さま
- 朗読ボランティア「コスモス」 太田様・皆さま
- 泉町二丁目商店街振興組合 宮本様・皆さま
- 茨城大学教職員の皆さま

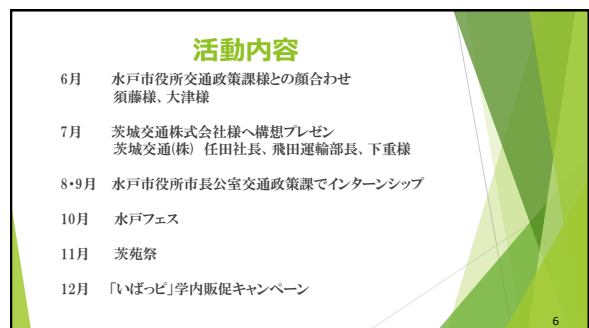
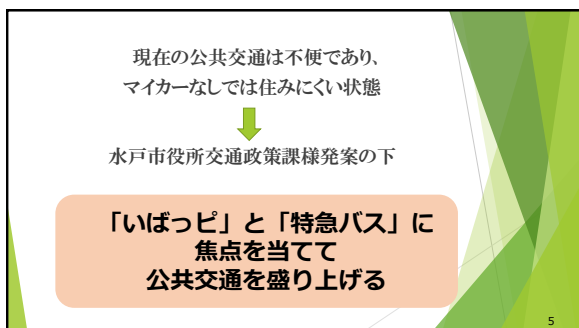
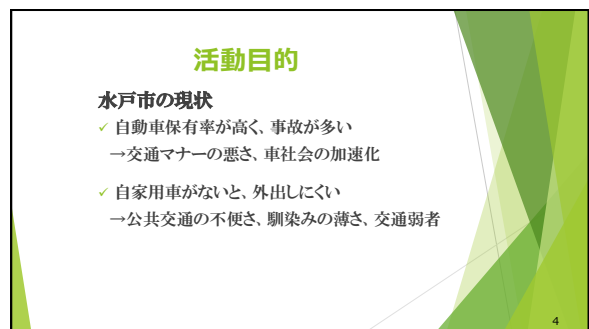
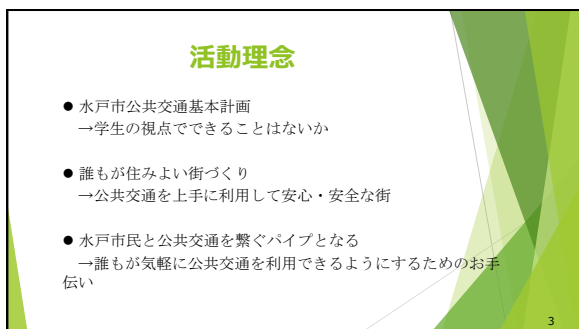
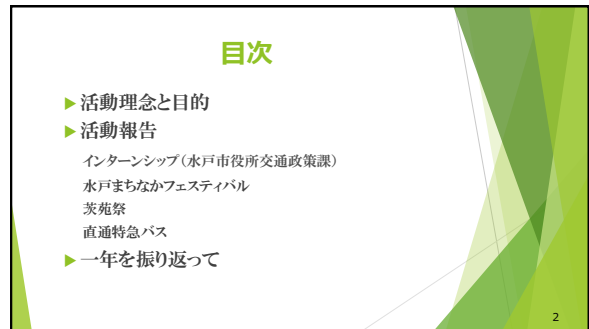
ありがとうございました!!!

11



ご清聴ありがとうございました

11



活動内容—インターンシップ

水戸市役所 市長公室交通政策課
8月から9月にかけて、各々3～5日間
お世話になりました

- ・市役所の仕事を体験
- ・一部メンバーは水戸市交通戦略会議に参加

7

水戸市交通戦略会議

平成28年度から35年までの八か年にわたり、
実施予定の「水戸市公共交通基本計画」
市役所、民間企業、専門家、一般市民などによる交通会議
皆が協力し、真剣に水戸の将来と向きあう姿

↓

行政の役割の一端にふれることで
水戸市民としての自覚


8

活動内容

—水戸まちなかフェスティバル①

10/25(日) 10:00～16:00
於 タウンモビリティ
(茨城交通様と共に活動)

- ・バスのぬり絵
- ・いばっぴの告知(ポスター、チラシ)
- ・いばっぴに関するアンケート調査



9

活動内容

—水戸まちなかフェスティバル②



10

活動内容

—水戸まちなかフェスティバル③




1. いばっぴ、「いばっぴ」の個人及び
法人の登録希望者はいくらですか?

個人	10%
法人	10%
その他	80%

2-1. いばっぴのどのようなところに不安を感じますか?



- 登録費のこと
- 利用料の支払い
- ICカードの紛失や盗難
- ICカードの申し込み
- ICカードの申し込み
- ICカードの申し込み
- ICカードの申し込み



11

活動内容—茨苑祭

- ・チーム発足の背景
- ・特急バス、「いばっぴ」の告知
- ・水戸まちなかフェスティバルなど活動実績
等の展示

12

活動内容一 直通特急バス

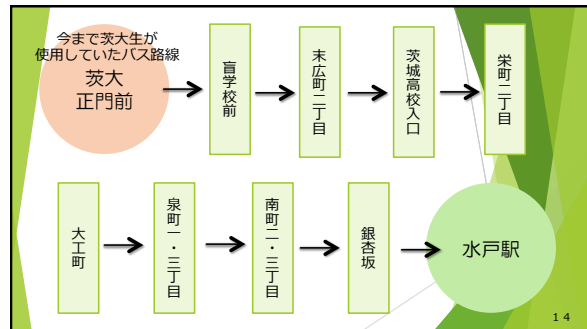
水戸市全体について取り組む前に、身近なところからバスの遅れなどに関して不満が上がる

↓

直通特急バス

- ・茨大正門前から水戸駅への定時性確保
- ・茨大生以外の乗客への混雑緩和
- ・市街地でのバスの数珠状態の緩和

1 3



直通特急バス

茨大正門前

沿線の学生の集中乗車によるバス車内の混雑
到着時間が不安定 などの従来の問題点を解消！

ノンストップで茨大正門前から水戸駅へと向かいます！

→ 水戸駅

来年度初旬に運行予定！！

1 5

一年を振り返って

> 交通に関して

- ・水戸市の交通の現状を知るほどに、将来どのように変わっていくのか、変えていくのが楽しみになった
- ・路線バスのICカード導入はその第一歩
- ・「交通は身近なもの、決して他人事ではない」との言葉を実感した
- ・交通を変えていくためには、私達ひとり一人の力が必要

> PBL全体を通して

- ・目の前のことだけでなく、数日後、数か月後のことを考えて計画を立てていくことが大事
- ・学外の方との交流を通して、社会人としてのマナーを学んだ
- ・学内外の連携のため、時間調整などの面で困難を経験したことで、どう対応するかを学んだ
- ・メンバーとの役割分担と情報交換の重要性を実感した

1 6

謝辞

- ・水戸市役所市長公室交通政策課 須藤様、大嶋様、小林様、村石様、大津様
- ・茨城交通株式会社 任田社長、飛田様、下重様、社員の皆様
- ・茨城大学 鈴木先生、神田先生、井澤先生 教職員の皆様

本活動をするにあたり、多くの方にお世話になりました。ご指導、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。本当に有難うございました。

1 7

ご清聴ありがとうございました

1 8

hearingの結果をもとに 大学生を対象として行うアンケートの作成

Twitter

→他人の写真などを載せる際の**肖像権**に注目

→バカッター

(SNSによって反社会的行動を世にさらけ出す行為)などに注目

LINE

→微妙な**ニュアンスの違い**からトラブルに発展するなどといった問題に注目

→また、**既読無視**や**LINEはじめ**などの問題に注目

7

アンケート調査の実施

実施日 7月30日
8月3日
実施対象 茨城大学生90名



実際に利用したアンケート用紙→

8

アンケート調査の結果

Twitter

意外にも半数の学生が、**他人の顔を含む写真**をツイートしたことがあると回答。

その際、**約7割**の学生が個人情報に配慮していると回答。

→また、男性より女性の方が個人情報に配慮する傾向があるという結果に！！

LINE

学生の**約10割**の人がLINEを使用していると回答。

また、比較的LINEを使用するのは、友人、家族などの**身近な人**であることが分かった。

＜反省点＞ 啓発のためのパンフレット作成を見据えた調査とは言いがたく、パンフレット作成が難航した。

9

2. 東京(NTTコミュニケーションズ様のオフィス)で二日間Webサイトの企画・立案を体験する。

◆2日間のPBL型インターンシップ

ドットコムマスターとは
NTTコミュニケーションズ様が主催するICTスキル認定資格制度

〈主な活動内容〉

- ・NTTコミュニケーションズ様の歴史や事業内容、また、Webマーケティングについての勉強会。
- ・ドットコムマスターのサイトに関するブレインストーミング

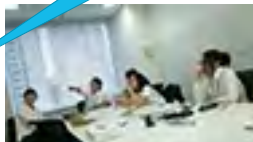
10

8月27日の日程

時間	内容
13:00	グランパークタワー1Fロビーに集合
13:10-13:20	オリエンテーション
13:20-14:05	「情報通信産業、NTTコミュニケーションズ、アプリケーション&コンテンツサービスについて」
14:05-14:15	「通信の仕組み～電話、インターネット、データ通信、携帯電話、海底ケーブル～」
14:15-14:30	休憩
15:00-15:15	コミュニケーションツールのご紹介「Bizグループワーク」と「マイボット」の使い方
15:15-16:00	「Webマーケティングの概要」 →一般的なWeb関連の知識、 →特定会社サイトでの取り組み
16:00-16:15	休憩
16:10-16:30	意見交換、「Webサイト制作実習」に向けたプレスト
16:50-17:00	撤収・解散

海底ケーブルに関しては、「是非知りたい！」とあらかじめリクエストし、説明していただいた

プロジェクトには是非活かしたい！



11

8月28日の日程

時間	内容
9:00-11:30	Webサイト制作検討 ※適宜休憩をはさむ、学生主体 →コンテンツ内容検討、できれば画面遷移まで
11:30-13:00	昼食(会食) ※GPビル近辺
13:00-14:30	Web構築打合せ (MA様・学生・Com) →MA様での事例紹介、最近のWebマーケティング事情 →Webサイト制作検討に基づきイメージ提示・意見交換
14:30-15:30	Webサイト制作検討 ※適宜休憩をはさむ、学生主体 →仕様具体化検討、宿題事項確認
15:30-16:15	意見交換
16:50-17:00	撤収解散

近くのレストランで会食担当の方々の就活エピソードなどを伺うことができた



12

2日間のインターンシップを通して.....

- ・企業がウェブサイトを作成する際の流れを理解することができた
- ・アクセスの傾向を閲覧数などから分析する、ウェブマーケティングの手法を興味深く感じた。

今後の活動にどのように活かすか

➡ 作成するウェブサイト上で、ウェブマーケティングの手法を実践してみたい!

13

3. 実際に学内システムを使った コミュニケーション・リスクの啓発活動

〈想定していた活動の流れ〉

- ①LINEに関する啓発パンフレットを作成 一茨苑祭にて配布
- ②NTTコミュニケーションズ様のドットコムマスターのサイトに掲載していただくページの作成
- ③根力育成プログラムのHPに私たちのプロジェクトをまとめるサイトを作成

→啓発パンフレットから各サイトにとべるようにQRコードを載せておく。

14

しかし様々な問題が.....

インターンシップで学んだウェブマーケティングの知識を活かしてみたい

啓発祭でのパンフレット配布が日程・規程それぞれ異なる!

それぞれのウェブサイトとパンフレットはどう位置づけるべきか

➡ これらの問題を解決すべくNTTコミュニケーションズの方々とは数度に亘る意識あわせ

15

NTTコミュニケーションズの方々との意識あわせの結果、いくつかの変更点が.....

- ①啓発パンフレットの配布時期
 茨苑祭 → 12月の平日に変更

主な変更理由

 - ・茨苑祭では祭りに直接関係のない配布物の配布がNG
 - ・あくまで配布ターゲットは大学生であること
- ②ウェブマーケティングの手法をどう利用するか
 時期をおいていくつか広報活動を行い、サイトへの反応(閲覧数など)を確認
 - ・2種類のパンフレットからそれぞれサイトにアクセスできるようにし、それぞれの閲覧数を確認する
 - ・TwitterなどのSNSを利用して広報を行い、閲覧数を確認する

16

③各サイトの位置づけと公開時期

根力育成プログラムのサイトは現在公開済み

年内に行うこと

1月中旬までに
行うこと

Twitter
詳細ページ

LINE
詳細ページ

ドットコムマスター
サイト

根力育成プログラム サイト
「わたしたちの活動」etc
もっと詳しく(各詳細ページへ)

LINEに関する
パンフレット配布

Twitterに関する
パンフレット配布

17

今後 行うこと

- ✓Twitterに関するパンフレットの作成・配布
- ✓ドットコムマスターのページ内容作成
- ✓LINE・Twitterに関する詳細ページの作成
- ✓閲覧数・直帰率・離脱率の確認、考察

これらの結果を元に
全体の活動レポート
を作成する

18

協力して頂いた企業の皆様

- ・NTTコミュニケーションズ様
- ・茨城キリスト教大学様
- ・サテライトIC様

19

ご清聴ありがとうございました。

20

茨城大学

プロジェクト実習 先進地実地研修 趣旨と実績

茨城大学・大学教育センター
副センター長（キャリア教育部長）
人文学部プロジェクト実習担当教員
鈴木 敦
atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp

1

茨城大学

- 1：PBLは西高東低
同志社大学PBL推進支援センター
コンソーシアム京都加盟の諸大学 等
- 2：東の雄・山形大学
FD・SD・大学間連携・地域連携
エリアキャンパスもがみ「FW共生の森もがみ」
大地連携ワークショップ 等々
- 3：さすが東京・役者がいっぱい
社会人基礎力育成グランプリ
産学連携ツーリズムセミナー 等々々

2

茨城大学

「井の中」から抜け出すために

履修生にこそ「まなぶ」「まねぶ」機会を！
そこで・・・

先進地実地研修の趣旨

プロジェクト実習と親和性の高い目的・内容・
形態で実施されている他大学の取り組みを参観し
これまでの自らの取り組みと比較検証することを通
じて、プロジェクト実習は勿論、各人の
今後の勉学・諸活動に活かすべき<学び>を得る

3

茨城大学

2つのカテゴリー

1. 先進地実地研修（近郊）
 - ・対象地域：東京及びその周辺
 - ・参加形態：原則として履修生全員参加
 - ・実施形態：貸し切りバスで日帰り実施
2. 先進地実地研修（遠郊）
 - ・対象地域：東北地方～近畿地方
 - ・参加形態：履修生代表若干名
 - ・実施形態：一泊二日ないし二泊三日
旅費支給

4

茨城大学

学びのために —お手元の資料をご覧ください—

1. 基本作業
 - (1)レポートの作成・提出で総括
 - (2)年度末の活動報告会等で報告して
参加の有無に関わらず履修者全員で共有
2. 研修内容に応じて
 - (3)プレゼン参観の場合は「採点」
 - (4)フィールドワークの場合は「事前調査」
等々

今後に活かす！

5


茨城大学

実施の前提

- (1)まずは、予算確保！
eg.東京日帰り往復で大型バス借り上げれば
高速料金・駐車場料金等コミで軽く12万円超
マイクロバスでも9万円余
- (2)適切な内容・適切な開催時期
・特に催事に参加する場合は、意外に時期が難しい
- (3)独自計画では、先方のご協力がカギ
・戴いたご協力に、篤く御礼申し上げます
- (4)催事参加・独自計画とも安全第一
・保険(履修前提として加入済)・交通手段・治安等

6


過去の実績(1)



2013年度（試行）
 公益社団法人 日本観光振興協会主催
 第10回産学連携オープンセミナー予選会(2名派遣)
 2013年12月15日 於：東京
<http://www.nihon-kankou.or.jp/home/committees/report/event/20140228.html>


発表題目(抄)

- ・ビッグデータの観光振興への活用
 (明治大学政治経済学部)
- ・食料産業クラスターによる地域ブランドの確立
 ～戦略マネジメントの視点から～(早稲田大学商学部)
- ・雨の日の観光を考える(首都大学東京都市環境学部)
- ・東京オリンピック2020をインバウンド誘致につなげる為に日本
 が取り組むべき事(一橋大・院・商学研究科経営学修士コース)





7

過去の実績(2)




2014年度・遠郊
 山形大学エリアキャンパスもがみ(5名派遣)
 2014年11月29日～30日 於：山形
 →プロジェクト実習Bの「本家」

近年、注目度が高まっている「地域連携系PBL」
 COC採択を受けて、今後一層充実が求められる分野
 →独自計画。金山町役場と山形大学学生サークル
 「チーム道草」の皆様のご協力の実現

8


過去の実績(3)



2014年度・近郊
 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実
 体制整備事業」関越地域大学グループシンポジウム
 (19名派遣)
 2015年2月12日 於：埼玉


- ・新潟青陵大学
- ・千葉科学大学
- ・西武文理大学
- ・茨城大学

プロジェクト実習C
 「ICEチーム」



9

2015年度の状況(1)




遠郊
 *候補：同志社大学PBL科目関係催事
 →プロジェクト実習A・C・Dのモデル
 →本学プロジェクト実習で2014年度から開始した
 「学外からのプロジェクト募集」においても先駆的存在

①2015年7月26日：中間報告会＝前期末試験直前
 ②2015年11月14日：PBLフォーラム＝茨苑祭当日
 ③2016年1月17日：秋学期報告会＝センター試験当日
 昨年に続き、今年も悉く日程が合わず断念 (T_T)

さて、どうする？

10

2015年度の状況(2)




近郊
 社会人基礎力協議会
 「社会人基礎力育成グランプリ2016・関東地区
 予選大会」(21名派遣)
 2015年12月6日 於：東京・拓殖大学
<https://www.mda.ne.jp/kisoriyoku/index4.html>

・・・と、いうことで、
 さあ！それでは報告へ
 行ってみよう！ ∟(-o-)／

11

ご清聴、感謝申し上げます



鈴木敦
 atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp

12

2015 年度 プロジェクト実習
先進地実地研修(近郊)

社会人基礎力育成グランプリ 2016
関東地区予選大会

<https://www.mda.ne.jp/kisoryoku/index4.html>



2015 年 12 月 6 日

拓殖大学文教キャンパス C 館 201 教室・301 教室

I : 趣旨説明

1 : 目的

先進地実地研修は、プロジェクト実習の一環として2013年度から実施しています。プロジェクト実習履修生の全員参加を原則として東京近郊で実施する「近郊」と、履修生代表者若干名により東北地方～近畿地方で実施する「遠郊」の、二種類が準備されています。そのいずれも、目的とする所は

プロジェクト実習と親和性の高い目的・内容・形態で実施されている他大学の取り組みを参観し、これまでの自らの取り組みと比較検証することを通じて、プロジェクト実習は勿論、各人の今後の勉学・諸活動に活かすべき<学び>を得ること

にあります。

このしおりの「IV : 担当教員より」にも記しているように、漠然と眺めていたのでは効果がありません。「他校の取り組みを自らの取り組みと比較検証する」という姿勢で参観する事が重要です。

2 : 今年度の参観対象

2015年度の先進地実地研修（近郊）では、東京・拓殖大学で開催される「社会人基礎力育成グランプリ 2016・関東地区予選大会」（<https://www.mda.ne.jp/kisoryoku/index4.html>）の参観を行います。

3 : 社会人基礎力と根力

「社会人基礎力」とは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱している能力です。「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、経済産業省のHPでは、「企業や若者を取り巻く環境変化により、『基礎学力』『専門知識』に加え、それらをうまく活用していくための『社会人基礎力』を意識的に育成していくことが今まで以上に重要となってきました。」とされています。

プロジェクト実習の背景となっている茨城大学就業力育成支援事業・根力育成プログラムでは、「根力（ねぢから）」という能力を掲げていますが、この根力は社会人基礎力をベースに茨城大学独自の要素を加えて構成しています。つまり、根力のコア部分をなすのが社会人基礎力ということになります。

4 : 社会人基礎力育成グランプリ

社会人基礎力育成事業の一環として、全国の大学における「社会人基礎力」の育成事例とその成果を学生チームが発表する場として、「社会人基礎力育成グランプリ」が設定されました。2007年度に全国7大学でスタートし、2012年度以降は100チーム以上が参加する大規模なイベントとなっています。現在は創価大学に事務局を置く非営利組織「社会人基礎力協議会」が運営しています。

Ⅱ：全体日程表

9：00 茨城大学水戸キャンパス発

*水戸キャンパス乗車者は、8:50 までに生協前周辺に集合

9：15 JR赤塚駅北口発

*JR赤塚駅北口乗車者は、9:05 までに指定の場所（次ページ参照）に集合

12：00～12：30頃 拓殖大学着

*拓殖大学文教キャンパス C館 201 教室・301 教室

〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14

URL：<http://www.takushoku-u.ac.jp/>

12：50 開会式

13：10 発表参観開始

*発表は二系統に分かれて C201・C301 の二カ所で別々に行われます。二手に分かれて参観して下さい。参観者が片方に偏りすぎないように、適宜譲り合ってください。

*参観教室の変更は、原則として14:50～の休憩時間のみとします。やむを得ない場合は発表者の交代時に移動して下さい。発表中の移動は発表者ならびに他の参観者に失礼となりますので禁止します。

13：10 発表 1グループ

13：30 発表 2グループ

13：50 発表 3グループ

14：10 発表 4グループ

14：30 発表 5グループ

14：50 休憩

15：00 発表 6グループ

15：20 発表 7グループ

15：40 発表 8グループ

16：00頃 発表参観終了（第8グループ発表終了時点で中座）

*発表は9グループまであり、更に審査その他と続きますが、帰着時刻の関係から本学の参観は8グループまでとします。発表者・参観者の失礼にならないよう、静かに退出して集合場所（当日指定します）に移動して下さい。

16：15頃 拓殖大学発

19：00頃 JR赤塚駅着

*JR赤塚駅降車者は解散

19：15頃 茨城大学水戸キャンパス着

*完全解散

*バスは大学側で準備しますので、茨城大学ー拓殖大学間の足代は不要です。

*食事代等は、各自の負担となります。

*昼食は各自持参し、車中～開会式前までの間に適宜済ませて下さい。

夕食については、解散前に摂る／摂らないを含めて、各自の自由とします。

*移動の途中、サービスエリア等でトイレ休憩を取ります。短時間ではありますが、その際に弁当等を購入することは可能です。

*** 当日の緊急連絡は、鈴木敦の携帯（XXX-XXXX-XXXX）へお願いします。**

参加者名簿・乗降地一覧

(省略)

赤塚駅北口乗降地地図（赤丸の付近に集合して下さい）

(省略)

Ⅲ：主催者より

主 催：社会人基礎力協議会
共 催：経済産業省
後 援：公益社団法人経済同友会、日本商工会議所
協 賛：S M B C コンシューマーファイナンス株式会社、
株式会社ウチダ人材開発センタ、
日本経済新聞社
キーファクター株式会社
メディア総研株式会社

- ・満席になりました場合には、立ち見や入場制限を行う可能性もありますので、予めご了承ください。
- ・当日は学食が休業日です。キャンパスから徒歩3分圏内のスーパーや飲食店をご利用ください。
なお、当日受付時に駅周辺の飲食店マップを配付します。ご活用ください。
- ・当日はクロークや荷物置場等はありません。貴重品は各自で管理していただくようお願いいたします。万一、トラブルが発生しても事務局では一切、責任を負いかねます。
- ・撮影は行って頂いて結構ですが、発表の邪魔にならないよう配慮してください。
ただし、事前に発表者の許可を得るようにしてください。
- ・スケジュールが変更になる場合もございますので、予めご了承ください。

【予選大会当日の連絡先】

会場校：拓殖大学 文京キャンパス
(以下、略)

IV：担当教員より

1：当日のスムーズな活動のために

当日は団体で行動します。遅刻や無断欠席等の無いよう、お願いします。
当日、緊急時の連絡は、下記鈴木敦の携帯へお願いします。

鈴木敦携帯電話番号：XXX-XXXX-XXXX

*鈴木敦の携帯電話は、普段は不携帯電話です。当日以外はメールでお願いします。
車に酔いやすい人は、乗車時にその旨伝えて下さい。前寄りの席を手配します。

2：学びのために

いくら優れた取り組みでも、漠然と眺めていたのでは学びは得られません。学びを活性化させる「しかけ」として、以下の2点をお願いします。折角の機会です。アクティブに取り組んで下さい。

(1)採点表の記入・提出

①採点表の記入（当日・紙媒体）

次ページに採点表を組み込んでいます。それぞれの発表を聴きながら・同時進行で記入して行って下さい。

「コメント」欄は、できるだけ記入して下さい。但し、「コメントに悩んでいる内に次の発表を聞き漏らした」となると本末転倒ですので、空欄になっても構いません。

採点・コメントとも、あんまりあれこれ考えすぎると、却って上手くいきません。直感で、「エイヤッ!」と書いてしまうのがコツです。

②採点表の提出（後日・電子媒体）

ガルーンの「プロジェクト実習（全体）」おしらせ欄に、採点表のフォームをアップしています。これに上記①のメモを転記して、鈴木敦宛に12/20までに送信して下さい。その際、ファイル名・メールの件名はいずれも【採点表（氏名）】として下さい。

電子媒体のフォームには、標題の下に学籍番号・氏名を記入する欄があります。忘れずに記入して下さい。

*②は、プロジェクト実習履修生の皆さんは「必ず」、プロジェクト実習履修生以外の皆さんは「できれば」お願いします（鈴木敦宛てにメールを戴ければ、採点表フォームをメールでお送りします）。

(2)ミニレポートの作成・提出

既にお送りしている「ミニレポート作成指示書」に沿って、作成・提出して下さい。念のためこのしおりの7ページに指示書を再録します。

*ミニレポートについても、プロジェクト実習履修生の皆さんは「必ず」「レナンディで」、プロジェクト実習履修生以外の皆さんは「できれば」「鈴木敦宛てに添付ファイルで」提出して下さい。

20151206先進地実地研修 近郊) 社会人基礎力育成グランプリ関東地区大会採点表

NO.	大学名	採点 (=最低・・5=最高の、5段階評価)									合計
		発表				活動内容				学び	
		PPT	ハンドアウト	プレゼン	質疑応答	着眼点切り口	プランニング	具体的取り組み	計画の達成度		
1A	埼玉女子短期										
1B	芝浦工業										
コメント											
2A	城西										
2B	信州										
コメント											
3A	千葉経済										
3B	諏訪東京理科										
コメント											
4A	創価A										
4B	多摩										
コメント											
5A	明星										
5B	創価B										
コメント											
6A	大東文化										
6B	拓殖B										
コメント											
7A	東洋学園										
7B	東洋										
コメント											
8A	拓殖A										
8B	明海										
コメント											
9	目白										
コメント											

大学名欄 :参観しなかった大学名を消して下さい

採点欄 :1(=最低)~5(=最高)で記入

「学び」欄は、「発表者達が、今回の活動を通じてどの程度学びを得たと思われるか」に関する採点者の推測値です

合計欄 :合計点を記入して下さい

20151206 先進地実地研修（近郊）ミニレポート作成指示書

20151120 鈴木敦

ミニレポートは、以下の要領で作成して下さい。

1：レイアウト・布字・字数等

ワードでA4タテ・横書き

余白は上下左右各 23・21・20・20

45字／行 48行／ページ

基本的にMS明朝・10.5ポイントとするが、必要に応じて変更可。

*要するに、この指示書の体裁と同じです。

必要に応じて写真・図表等を盛り込む

写真・図表等を除いて「400字以上・上限無し」（文字カウント機能で確認して下さい）

*題名・氏名も文字数に加えます。

2：ファイル名・送信先・締切等

ファイル名：2015 先進地実地研修（氏名）

送信先：レナンディ「プロジェクト実習（全体）」の「課題」の04番

締切：2016年1月6日 23:00

3：レポート冒頭の体裁について

(1)第一行に＜中央揃え＞で題名を記して下さい。

*文章の内容に沿った題名を考えて下さい。「先進地実地研修に参加して」式の、＜小学生の夏休みの日記のような＞f(^_^; 題名は避けて下さい。

(2)第二行に学籍番号氏名を＜右寄せ＞で記して下さい。

(3)第三行から本文を記して下さい。

*これまた、この指示書の体裁と同じです。

4：内容

他大学の発表を聞いて、「これを学んだ・今後活かしたい」ということを記して下さい。

(1)「素晴らしいから見習いたい」「ヒドイからあんなってはいけない」のどちらからでも／両方からでも結構です。

(2)記述対象は、「取り組み内容」「プレゼンの仕方」のどちらでも／両方でも／それらを踏まえてより踏み込んだ内容でも結構です。

(3)取り上げる発表は一校でも・複数校でも結構です。

(4)記述は、なるべく具体的をお願いします。

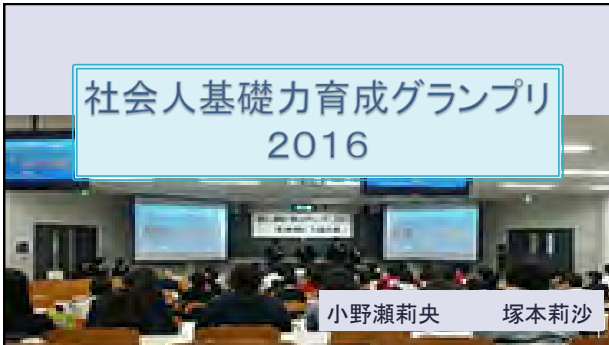
悪い例「発表してくれた大学は、みんなすごいなー、見習わなくちゃいけないなーと思いました♪」

よい例「〇〇大学の取り組みにおいて、メンバーは××というプロジェクトに取り組む中で△△という問題に直面し、◎◎という対応をすることでこれを解決した。類似の問題は、今年度の自分のチームでも発生したが・・・」

「〇〇大学のプレゼンは、使用したPPT・ハンドアウトの見やすさもさることながら、発表時のアイコンタクトや・・・」

「〇〇大学の発表は、内容・プレゼン共に素晴らしかったが、特別積極的な一名が一人で切り回して来たな、ということがありありと伝わって来た。チームでの活動を前提とするプロジェクトで・・・」

「〇〇大学の発表は、内容・プレゼン共に素晴らしかったが、教員や学外協力者が徹底的にお膳立てをして学生はただそれに乗っかって動いているだけのように感じられた。社会人基礎力の養成という本来の目的を考えれば・・・」



社会人基礎力とは

- ▶ 職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力
→「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」
- ▶ 経済産業省が2006年から提唱している能力
→ 企業や若者を取り巻く環境変化により、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが今まで以上に重要となってきています。
- ▶ プロジェクト実習の背景となっている茨城大学就業力育成支援事業・根力育成プログラムでは、「**根力(ねぢから)**」という能力を掲げている
→ 根力=社会人基礎力をコアとし、独自の要素を加えた能力

2

参加理由

根力を**UP**させる

他大学の活動を知る
今後に生かせる学びを得る

3

社会人基礎力グランプリ2016・関東地区予選大会とは

- ▶ 2015年12月6日(日) 拓殖大学 文京キャンパス C館201・301
- ▶ 社会人基礎力育成事業の一環として、全国の大学における「社会人基礎力」の育成事例とその成果を学生チームが発表する場。
- ▶ 全国6地区で予選大会を実施し、各予選大会を勝ち抜いた地区代表が決勝大会に進出。決勝大会で、最も成長が著しいと評価されたチームに「社会人基礎力大賞(経済産業大臣賞)」が授与
- ▶ 2007年度に全国7大学でスタートし、2012年度以降は100チーム以上が参加する大規模なイベント
- ▶ 近年企業からの注目も高まっている

4

出場校

■ 埼玉女子短期大学 (国際コミュニケーション学科)	■ 芝浦工業大学(工学部共通学群)
■ 城西大学(経営学部)	■ 信州大学 (サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)
■ 千葉経済大学(経済学部)	■ 諏訪東京理科大学(経営情報学部)
■ 創価大学(経済学部) ←	■ 多摩大学(経営情報学部)
■ 明星大学(明星教育センター)	■ 創価大学(経営学部)
■ 大東文化大学(国際関係学部)	■ 拓殖大学(国際学部)
■ 東洋学園大学(現代経営学部)	■ 東洋大学(社会学部)
■ 拓殖大学(政経学部)	■ 明海大学(経済学部)
	■ 目白大学(人間学部)

15校17チーム

5

創価大学 経済学部経済学科について

- 発表内容
幸せおすわけプロジェクト～Mottainaiを行動に食品ロス削減を目指して～世界の食の不均衡に焦点を当てたプロジェクト。
- 〈問題解決策〉
- ①ドギーバック(食べ残しを持ち帰る容器)にケニアの子供達の絵を用いた独自のドギーバック「おすわけBOX」を作成。
- ②日本の食品ロス削減とケニアの食料事情改善を両立する事業を開始。
- 〈成果〉
- ①ホテル、飲食店、行政、NGO等の調査や営業を実施し都内ホテルでの「おすわけBOX」の導入が決定。
- ②ケニアの子供達への1000食分の給食提供を実現。

6

創価大学 経済学部経済学科について

〈感想〉

- ▶ プレゼンの仕方が上手だった
→ 声の抑揚の付け方
→ 聞き手に語りかけるような発表
- ▶ スライドは図を対比させたりと見やすい工夫がされていた
- ▶ 卒業後もプロジェクトに関わろうという意志があった

7

良かった点

- ▶ ジェスチャーを交えての発表
- ▶ 笑いを交えたユーモアがある発表
- ▶ 最後に改めて簡潔にまとめて提示してきた点
- ▶ 仮説や予想を立てていた点
- ▶ 実物の成果(商品など)を示していた点
- ▶ 意識改革をメンバー全員で行い高い意識でプロジェクトを実行していた点
- ▶ 相手側の変化にも注目していた

8

悪かった点

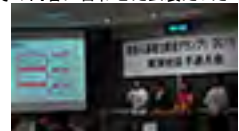
- ▶ PPTの展開が早くに書いてあるか分からない点
- ▶ PPTは図や色が多すぎても少なすぎても見づらい
- ▶ 発表時間内に終わらないこと
- ▶ 発表の時、下やPPTの方ばかりを見てたこと
- ▶ なぜプロジェクトをやっているのか、目的が感じられない所があった
- ▶ 目的を遂行するという意志が感じられない所があった

9

ユニークだった点

- ▶ 発表者同士が会話しているような形で発表が進められていたところ
- ▶ 部屋の電気を消し、写真を映すことによって、より幻想的で印象に残った
- ▶ 発表者の衣装がスーツだけではなくその内容に合わせた衣装だったこと
- ▶ 時折ジョークを交えていたこと

LINE風に事実経過をしていたこと



10

学んだこと

- ▶ 発表者……………「明るく前を向いて、はっきりゆっくりと話す」、アイコンタクト、声の抑揚
 - ▶ PPT……………色を使いすぎない、文字の大小を使い分ける
 - ▶ 発表をよりよく ……楽しんで聞いてもらうには…？
するための工夫 ……印象的なものにするには…？
 - ▶ メンバー内で ……役割分担、スケジュール管理、情報の共有の徹底、
大切なこと ……後輩への引き継ぎ、メンバーを信頼して頼る
- ▶ 正しいフィードバックを得て今後に活かすべき
 - ▶ 一歩踏み出してやってみる
 - ▶ 困難をどう乗り越えるかが社会人基礎力を上げるのでは
 - ▶ 常に何のためのプロジェクトか、どういう意義でやっているのかを考える

11

ご清聴ありがとうございました

12

お話の流れ・・・努力目標

茨城大学

I: 趣旨説明
 II: 登壇者紹介
 III: 本題

- 1: 今次組織改革とPBL授業、その中でのプロジェクト実習
- 2: PBL授業の特質と、教員の基本スタンス
 - (1) PBL授業としてのプロジェクト実習
 - (2) 千差万別な「対象」
- 3: モチベーションの明確化
- 4: プロジェクト提案はざっくり? 具体的に?
- 5: プロジェクトの完成度か・学生の学びか
 - (1) 完成度VS学び
 - (2) 自問自答を可能にするための授業改善
- 6: 具体的な授業改善に向けて
 - (1) そもそも学生の目にはどう見えていたのか
 - (2) 具体的な授業改善に向けて (=まとめ)

1

授業の質保証 二つの局面

茨城大学

1. 授業の設計と運用

2. リフレクションと
成績評価

2

1への対策

茨城大学

これが必要! (1) 履修目的の明確化

- ・ 自己の現状分析: 「根力構成要素ルーブリック」記入
 マインドマップ作成 & 学生間意見交換
- ・ 取組対象の研究: P J 提案者との直接面談(質問票作成)
- ・ 選択理由成文化: 取組希望 P J とその理由
- ・ 履修目的明確化: 「個人の達成目標ルーブリック」作成

これが必要! (2) 課題発見技法の実践学習

- ・ 役割の自覚 : 事例シナリオ学習
- ・ 課題発見技法(1): ブレインストーミングとK J法 A L
- ・ 課題発見技法(2): B SとK Jでチーム活動構想立案

→2015年度プロジェクト実習冒頭に組み込み

3

主な追加教材

—お手元の資料をご覧ください—

茨城大学

1. 根力の構成要素ルーブリック
2. マインドマップ解説書
3. 個人の達成目標ルーブリック
4. 事例シナリオ雛形と
教員用手控え
5. BS(ブレインストーミング)と
KJ法解説

4

中断したアイテム

—お手元の資料をご覧ください—

茨城大学

1. 朝日新聞講座(原因は主に日程)
出張講座→活動紹介文作成→
朝日新聞講師による添削→
ポスターセッション
2. PROGテスト(原因は主に予算)
「コンピテンシーを測る」テスト
データは継続的に蓄積されてこそ
将来の財産になるのだが...
来年度以降の復活はなるか?

5

2015 プロジェクト実習の大まかな流れ

茨城大学

4月～6月前半:
 ガイダンス→根力R→前年度代表チームによる活動紹介→マインドマップ→プロジェクト提案→直接面談→希望理由書→目標R→チーム結成→事例シナリオ→B SとK J法のA L→チーム別活動(B SとK J法で構想立案)→構想発表会

6月後半～前期末:
 チーム別活動→中間報告会

夏期休暇～後期初頭:
 チーム別活動→中間報告会

11月ごろ (チームにより変動あり。概して学園祭時期)
 チーム別活動→ピークとなる活動・催事

11月後半～12月前半:
 チーム別活動→先進地実地研修→活動報告会(約50日繰り上げ)

12月後半～年度末:
 リフレクション→報告書作成

追加アイテムも
適宜差し替え

6

